

# インターカルチャー

## INTERCULTURE

NO. 89

2003年10月号  
OCTOBER



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)  
〒562-0032 箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

オーストラリアホームステイ  
サマーキャンプ報告  
特集「私の夏」  
空手全国優勝&準優勝  
SPP(サイエンスパートナーシッププログラム)



Library-1 (<http://www.senri.ed.jp/facilities>より)

# 2003年夏、渋谷

大迫弘和

SIS校長

随分と久しぶりにこの夏渋谷の街を歩いた。冷夏の夏であったがその日は夏の日盛りに頭がくらくらとするくらいに暑い日だった。

「すごい変わり方だな。」

率直にそう感じた。

「まるでソドムのように……」

思わずそう呟いた。

以前同じように日本の街の変化を強く感じたことがあった。1987年から英国で生活していた時、多少まとまった休暇が取れても、当時小学生だった二人の子供たちに少しでも多くのヨーロッパの都市を見せてあげたくて、決して日本には帰らず、家族で国々を旅した。その結果ふと気づくとほぼ丸3年、日本には一度も戻っていなかった。約3年ぶりに見た日本はちょうどバブル崩壊直前、線香花火の消える直前の閃光のように、狂ったように街は「繁栄」していた。

2003年夏の渋谷に話を戻そう。

渋谷は僕にとって近しい街であった。もう30年前になる大学生時代、その前半の2年間を渋谷から私鉄の各駅停車で二駅のところにあるキャンパスで過ごした。毎日渋谷を通過して通学し、ときに友と遅くまで語らったのも渋谷であった。

「学生さん、これが最後よ。学生さんはこれ以上飲んだらいけません。」

文学と政治的なことがらと、議論に熱中する僕たちに、そう言ってきちんとお酒を止めてくれた小さな飲み屋の女将さんの事を今も懐かしく思い出す。

その頃、渋谷の街にいた人間で一番若かったのは僕たち大学生だったように思う。

しかし、2003年夏、渋谷は、夜になっても中学生高校生で溢れかえっていた。いや、その中には小学生も混じっているのだ。「小学生4名監禁」の報道でそのことを知る。

産業資本主義が生んだ社会の暗部。欲望渦巻く絶望的な都市。

「まるでソドムのように……」

この夏、次々と報道された中学生の事

件、それらが、渋谷がシンボリックに示す2003年の日本の状況と無縁であるとは、僕には決して思えない。

そしてSISのことを考える。

こんな時代に「5つのリスペクトだけを基本にして、人間として正しいと思われる行動選択をしていこう」などという教育はばかげた夢物語、夢に過ぎないのではないか。一步SISの外に出れば、人間の汚れた欲が渦巻く「現実」が押し寄せてくる。SISで学んだことの「有効性」などあつという間にもろくも崩れさってしまう……

いや、そうではない。決してそうではない。

時代がこのようであるからこそ、私たちは、5つのリスペクトだけを掲げ、人間として正しいと思われる行動をしっかりと選択できるように、そのための基礎的なトレーニングを、ここSISで続けていかなければならないのだ。

昨年9月5日に亡くなられた長谷彩さんのところに、今も毎月5日の月命日には必ず訪れる生徒がいる。北海道の学年旅行の前も、今から行ってくるよ、と告げる友達があり、帰ってきたあとはその友達からのたくさんのお土産で彩さんの部屋は埋まった。夏前に一年の留学に出たある生徒はその出発前に「今からちょっと一年出かけてくるね」と彩さんの霊前に報告してから旅立った。そして一回忌、多くの友人が彩さんの部屋を訪ねた。

今年の12年生の心の優しさ、思いやりのなんと深いことだろう。

SIS/OISの生徒が何人か出演するというので、本町の開成館に「2003 Fresh Concert」を聴きに出かけた。SISからは錦美文香さん、中村陽香さん、奥村悠さんがそれぞれ美しい演奏を聴かせてくださった。陽香さんと悠さんのそれぞれの演奏にはSISの卒業生の藤田宏美さんがパートナーとなり、パイオリンとピオラの二重奏が奏でられた。SISで6年間学び、音楽大学を卒業し、今も音楽の道を歩みながらSIS/OIS

OISの個人レッスンの先生もしてくださっている藤田さんと現役のSIS生徒である陽香さん悠さんが醸し出す重奏の音色は、何か耳になじんだ、心がほっとする音色であった。

「SISの音？」

卒業生、現役生徒の息のあった美しく優しさに満ちた重奏に、SISの教育の底に流れ、卒業生から在校生にしっかりと受け継がれている確かななにかを感じた。

私たちの学園はこれからも5つのリスペクトだけを掲げ進んでいく。それが可能であること、決して夢物語でないことを、SISの生徒たちが証してくれている。

勿論心配なこともある。授業に時間割の見間違いで欠席してしまった生徒に先生が「この前の時間はどうしたのですか？」と尋ねたところ、その生徒が「あ、時間割、間違えちゃって」とだけ悪気も感じぬ様子で答えたという。先生はその態度を厳しく注意されたのだが、たまたまその場面を目撃した卒業生が生徒のその態度に憤慨していた。

「まず先生に『申し訳ありませんでした』と謝すのが当たり前ではないか。それから理由を言うべきです。先生に対してのリスペクトがなくなっていると思います。SISは絶対そんな学校になって欲しくない。」

大阪北摂の地に、時代がどのようなであろうと、掲げた理想を決して引き下げなかった学校があった。

歴史の中でそのように語られるような学校であり続けたい。

2003年夏、渋谷の街の喧騒の中で考えたこと。

(注)ソドム[Sodom]旧約聖書創世記一九章にある町の名。住民の不道徳・不信仰のため(本来の解釈では神の使者を冷遇したため)、ゴモラとともにヤハウェ神に滅ぼされた。転じて、悪徳の町。

# 空を見つめて

～9年生オーストラリア・ホームステイ・プログラム～

廣田文野

9年担任、生活科学科

日本ではまだ冷たい夏が続く中、私たち9年生は赤道を越え、冬真っ只中のオーストラリアで「研修」の旅をしていました。

参加した32名は飛行機も海外旅行も初めて！という人、家族と離れることすら初めてという人、帰国生で英語はまずまず話せるがさらなるスキルアップを目指す人、英語ははんで駄目だけど何とか話せるようになりたいという人、千里国際学園に入学したときから絶対行こうと決めていた人...などなどさまざまな顔ぶれがそろっていました。ちなみに、引率教員は前半がこのプログラムの担当の中村先生と廣田、後半は9年生学年主任の木村先生と廣田、という9年生にとっては「いつもの」顔ぶれです。

実のところ、私にとってもオーストラリアは初めての国でしたので、生徒と同様、期待と不安に胸を膨らませていました。ここでは、長かったようで短かった、そして辛かったけれど楽しかった3週間の研修旅行を改めて振り返ってみようと思います。

## 千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行動に責任を持ち、よい人間関係を維持していく能力が、生徒各自に備わっていると信じます。この考えにもとづいて、次のような行動の目安がつけられています。

### <5つのリスペクト>

自分を大切にする  
他の人を大切にする  
学習を大切にする  
環境を大切にする  
リーダーシップを大切にする



### <1週目:到着、緊張の連続>

7月12日土曜日、午前7時、JAL777便にて私たちはBrisbane International Airportに到着しました。時差は1時間なのでスムーズに起きられるはずなのですが、昨夜の飛行機では「興奮状態、一睡もしていない！」なんて人もいる上に、オーストラリアでは入管の検閲が厳しいため、皆ドキドキを隠せません。何とか無事、入国をすませ、しばし観光。Loan Pine Sanctuaryでお決まりのコアラを抱いたり（私もちゃっかり写真を撮りました。）、Mt. Koothaに登り雄大な景色を眺めたり。どの生徒もおおはしゃぎ...この先の不安をかき消すかのように...

生徒は二つの学校で研修を受けます。Sandgate High Schoolには8名、Naranda State High Schoolには24名が参加します。それぞれの学校へ向かうバスの中では、「緊張するー。」と手が冷たくなり、ひざが震え...私もつられて震えてしまうほどでした。

そして、ついにHost Familyとの対面です。

なんとと言っても、到着していきなり「家族と過ごす週末」なのです。それはそれは不安でたまりません。しかし、青い顔のみんなの緊張も出迎えに

来てくれた家族の優しい笑顔に少しは和らいだようです。車に乗ってそれぞれの家に帰って行きました。

週明け、学校がスタート。懐かしい？千里国際のみんなと再会です。「こんなに長い週末を過ごしたことはない！」と口々にお互いの様子を知らせあっています。私は内心（いまだかつて生徒たちが私と会うのをこんなに喜んだことがあったかしら...）と複雑な思いを抱えながら、みんなの元気そうな顔を見て、ほっとした瞬間でした。この時期、みんなから毎日手渡される日誌は、びっしりと文字で埋め尽くされていました。内容は「元気！」「オーストラリアに来て良かった！」「家族はとても優しい！」「友達が出来た！」「パディは超可愛い！」とまさに、ハイテンションの一言です。

英語漬けの毎日やオーストラリア人の生徒からの質問攻撃に疲れは感じているものの、「何とか頑張る！」と頼もしく決意している人もいました。

### <2週目:慣れ、不満、体調の変化>

この週からは、1週目は毎朝行われていた日本人だけのミーティングがなくなり、それぞれが一日中パディと行動を共にします。これは、千里国際の生徒同士で会う機会がほぼなくなるこ

とを意味します。少しずつ、英語も聞き取れるようになり、オーストラリア人の生徒も日本人に慣れて来る頃です。それとともに、たくさんの不満がふつふつと沸いてきます。

みんなが一番対応に困っていたのは、「汚い言葉」。「...って日本語で何て言うの?」「...って知ってる?」男女の区別なくしつこく聞かれます。挑発も受けます。言っていることは理解できるので、腹が立つのですが、もっと悔しいのはどうやって言い返していかわからないこと。無視して、ひたすら我慢です。この頃の日誌には、「愚痴ばっかりになっちゃうけど...」と毎日自分がストレスに感じていることを書き綴り、「日本語を書いていると心が解放された気持ちになる。」と一生懸命自分を保とうとしている姿がうかがえました。

個人差はあるものの、皆同じような経過をたどっていることが日誌からわかりました。驚いたことに、多く人が空を眺めていたのもこの時期の特徴でした。家の人とうまく会話が弾まず落ち込んだり、学校で嫌なことがあったり、風邪を引いて心細くなったり、そんな時に空を眺める人が多かったようです。私も時折見ていたのですが、オーストラリアの空は果てしなく広く、昼は雲ひとつなく、夜は星が文字通り瞬いているのです。その満天の星空に感動した人もいれば、遠く離れた日本の家族を思う人、大空の下で「何て自分は小さいんだろう。」と悲しくなる人...それぞれが自分を見詰めなおすチャンスにめぐり合ったようです。

私も日誌を読みながら、「ああ、同じ大地の上で、同じ空の下でこんな言葉を聞けて本当によかった...。」と（柄にもなく）胸を熱くしました。

《3週目:別れ》

最終週です。それぞれが別れを意識し始めます。悔いのないようたくさんの人と、たくさんの会話をしようとして一生懸命です。この旅行で出会えたもうひとつの家族と少しでも一緒にいようとチャンスを探します。オーストラリア人の生徒たちも「もう帰ってしまうの?」「帰らないで。」と別れを惜みます。中には、「今まであまり接点

のなかったDadがついに私の名前を呼んでくれた!」「パディと本当の友達になれた気がする!」とやっとの思いで達成感を味わう人もいて、ますます帰国が辛くなります。家族も色んな場所に連れ出し、思い出を作ろうとしてくれます。

帰国間近、それぞれの学校ではHost familyやお世話になった先生を招いて「さよならパーティ」が催されます。私の担当だったNaranba State High Schoolでは、さよならパーティ当日、この旅行に来て良かったことを話し合いました。毎日の送り迎え、食事の準備、週末の外出、家事の手伝い、パディとの喧嘩、かけてくれた言葉...どんなことも忘れられない思い出です。オーストラリアは「Hospitality」の国です。生徒もそして私もその「もてなしの精神」に助けられ、仲間に入れてもらいました。このお返しをするには、さよならパーティを成功させるしかない、そんな思いを胸に、それぞれがいつもの倍の力を発揮し、会場の飾り付け、司会、出し物に取り組み、Host familyやお世話になった先生を精一杯もてなすことができました。（ちなみに、「二人羽織」をしたのですが、誰か分からなくなるくらい顔に生クリームを塗られた女の子や、お化粧されて結構きれいになっちゃう男の子がいました。会場が大賑わいだったのは当然です。）

そして、別れの朝。男子も女子も涙でなかなか家族と別れることができません。私は心を鬼にして、スーツケースをバスに積み込み、パディや家族と抱き合う生徒を引き離し、飛行場へ向かうバスに乗せます。「絶対またここに戻ってくる。」どの生徒も同じ思いで帰路につきました。

この3週間で、彼らは大いに成長しました。何が彼らを成長させたのか?それは一言では言えません。でも、あげるとすれば、「克服」とか「達成感」とか「自信」だといえます。自分



の意見や考えを尊重されることが当たり前の環境に慣れてきている私たちですが、オーストラリアでは逃げることは許されません。自分の思い通りにいなくても、辛いことがあっても、逃げて帰るわけにはいかないのです。悩んで考えて行動して乗り越えたから、自信が生まれたのです。だからこそ、辛くて長かった研修が楽しくて帰りたい研修になったのです。オーストラリア人に馬鹿にされても耐えるしかなかったある男の子が書いていました。「英語で言い返せばなめられないことがわかった。」ちょっと乱暴かもしれないけれど、一人で考えてやっとな行動にできたのです。成長と呼んでいいのではないのでしょうか。

来年、そしてこれから、この研修に参加する生徒の皆さん、決して楽しいことばかりではありません。でも、図書館においてある感想文を是非読んで下さい。みんなが行ってよかったと思えるのがなぜかきっとわかるはずですよ。

# サマーキャンプ報告

## ＜自然体験キャンプ＞

### 手作りティーピーのキャンプ

田中 守

理科

今年の森のキャンプは、みんなで作り上げたティーピー（インディアンテント）で生活したキャンプでした。これまで、1つか2つぐらいは作って遊んだことはありましたが、みんながそこで泊まったのは初めてです。キャンプ場の人もすごく感心していて、ぜひこわさずに残しておいてほしいと頼まれ、結局この夏、呼子キャンプ場を使った他の団体の人たちも、私たちのティーピーに泊まったはずでした。

たくさん雨に降られました。肝試しはレインコートを着て歩いたり、特に後かたづけの時はたいへんでした。朝から雨は降ったりやんだり。もうみんなビショビショ。ようやく片づいて、さあ帰ろう...と思ったら今度は土砂降りの雨。でも、雨にも負けず、キャンプをすごく楽しんでくれたようです。こんな感想をくれました。『はじめはすごく虫が多くて本当にいやだったけど、3日目ぐらいになってきたらどんどん虫にも慣れてきました。……1日1日がすごく充実した1日でした。1日中動きまわったりしていたのでつかれました。(Gr. 7)』『この森のキャンプで一番心に残ったのはやっぱり「キャンプファイヤー」と「パフォーマンス大会」です。(Gr. 7)』『3泊4日って長いなあーと思っていたけれどすぐに時間がきてしまってあまり帰りたくなかった。……レンジャーさんに色紙を渡すと泣き出されてしまったので、どうしようかと思った。でもすっごく楽しかった。できればレンジャーになりたいとなあと思った。(Gr. 8)』『はじめはどうなるかと思ったけど、実際に来ると、めちゃくちゃ楽しくて、みんなといつまでもいたい気がしました。ふつうの生活では学べないことや、たのしさ、色々なことがありました。何もかもが不便で、もうイヤッと思ったりしたけど、

楽しさでふっとびました。(Gr. 8)』キャンプを運営したレンジャーたちもいろんなことを学んだようです。『自分の一声で大勢の人間が働いて、どんどん片付いていくのを見ていて、正直涙が出そうだった。あんなに「支えられている」と感じたのは、生まれて初めてかもしれない。そしてあんなに感謝したのも今世紀になって初だ。

(Gr. 12)』『実際キャンプに行ってみて、レンジャーがなぜあんなにミーティングをしていたのかという疑問が解けました。もっと積極的に参加したらよかったと思いました。……「楽しいキャンプだった」と言われたときうれしかったです。楽しむのではなくうれしがるものだと感じました。(Gr. 11)』『初めてうまくいった日、本当に感動した。けど、それ以上にうれしかったのが、キャンパー（中学生）がナベ洗いにはまってくれたこと。熱があるのに洗ってくれた子もいて、本当に洗い場やってよかったなと思った。……私の名前も言おうとしたら「知ってるよ。まやでしょ！」と言ってくれた。こんな地味な仕事をしていても名前を覚えてくれて本当に本当にうれしかった。(Gr. 10)』ほんの一部の声しか紹介できないのが残念です。まだ感想文を出していない人は早く出してくださいね。最後に、運営を担当した高校生のフォレストレンジャーのまとめ役だった鷲尾君と、キッチンを中心にいるとキャンプを支えてくださった南先生からのメッセージを紹介します。

なぜレンジャーを選ぶか？

鷲尾 崇

高等部3年

今年の森のキャンプは、前例なき雨のキャンプでした。例年、僕らはキャンパー達が到着する前にキャンプ場へ行き、キャンプ本番に向けて準備をし



ます。今年もそのプレキャンプは行われたのですが、キャンプ場に向かう道中から振り始めた雨はキャンプ場に到着しても止む気配はなく、予定していたプレキャンプの段取りも大幅に変更されました（その際に全く動じなかったプレキャン担当の奈穂子は凄い）。ただでさえ慣れない作業を、雨の中、動きにくく不快なレインコートを着用して行い、最初のご飯ということでキッチンも大忙しで（しかし夕飯は本当に美味しかった！）、なんとか1日目が過ぎました。2日目のプレキャンが終わっても、予定していた準備がすべて終わったとは言えず、半ば不安の残る体勢のままキャンプ本番へと突入しました。今年はティーピーを各グループごとに設置して、それに寝泊まりするという企画だったのですが、そのティーピーが立たない。夕飯が始められない。洗い場が混雑する。様々な問題が続けざまに降り掛かりました。

スケジュールと違う、グループがまとまらない、ティーピーが完全でない、ご飯作りの要領が得られない、洗い物が上手くいかない、明日のプログラムが心配、何をすべきかわからない、明日は晴れるだろうか。キャンパーが到着した夜、レンジャーの上にとくさんの不安と疲れが積もっていました。

スケジュール、という聞こえは軽いですが、その内容は非常に細部にまでわたっていました。例えば、「この時早朝プログラムの準備に3人必要」

という要請がプログラムというセクションから入ると、マネージメントというセクションがどこから空いている人員を確保してそこに補充、それをスケジュール上で発表して全体のスケジュールが完成されていく、というように、スケジュールは徹底された「行動予定一覧表」でした。

しかし、そんな風に徹底されてこだわりのあった予定が一日目からコロコロ変更されたにも関わらず、翌日は、再び予定こそ変更はあったものの、とても上手く事が進み、いつ頃からか元々あったスケジュールに対してあまり神経質にならなくなってきました。レインコートを着ている事も忘れて、長靴から普通の靴に履き替えると逆に違和感があるくらい、雨はそのキャンプにとって「いつもの天気」となり、雨の中で作業することや雨のせいでプログラムが変更することさえ(プログラムが変更になったのはティーピーの補修に追われていたせいもありますが)「普通」、となりました。肝試しも上手く行き、本番2日目、皆に安堵の表情が戻りました。

翌日からは晴れ間も覗き、立派なティーピーが並び、キャンプファイヤーを晴天の下で行うこともできました。最終日はその反動のような大雨に見舞われましたが、それでも片付けは着々と進み、皮肉にも、無事“予定通り”の時間でキャンプ場を去ることができました。

今年のキャンプは、徹底的に計画を練り上げ、万全の状態でも挑んだにも関わらず、それらは悪天候に一蹴され、予定変更を余儀なくされてしまいました。しかし、一度はヘコんだものの、本番2日目の成功に連れて、最善の方向へ予定を変えていくこと、その変更された予定の中で最高の働きをすること、またその中で事前に決めていた事をできるだけ実行することができるようになってきました。実は僕はキャンプ前の6月のミーティングで、「このミーティングで話し合う事の意義」について田中先生から講義を受けており、その中で「キャンプ場では予定はどんどん変更されていく。そしてそのズレを修正していく。その時に修正する方向の基準を、今ミーティングで話

し合って決めている。」という事を教えてもらいました。

事前に1ヶ月間話し合っただけスケジュールも、現地でも方向転換が重なってできた最終的なスケジュールも、どちらも今回のキャンプにとって大きな意味があるもので、不可欠であったと思います。キャンプが終わって、皆が達成感に打ちひしがれていたのも、そんな逆境の中で、自分達の現地での力でキャンプを作ったからであって、それはただ決まったスケジュールを淡々とこなしていったのでは得られなかった感動であると思います。6月中にキャンプは一度終わっていて、7月のキャンプはそれが平気で覆される。それをなんとか良いキャンプへと持って行く。そこにレンジャーの醍醐味があるのであって、そんな体験ができるのも、自分達でキャンプを作るレンジャーだけなのです。そういう意味で、今年のキャンプに参加したレンジャー達はとても幸運であったと言えるかもしれません。今回は、キャンパーの皆にもそんな自分の手で何かをやりとげる楽しさを味わってもらおうという試みもしました。来年やその後、今回のキャンプでその楽しさを感じた人達が、レンジャーになってそれをキャンプを作る側として味わっている姿を想像すると、レンジャーってええなああとつくづく思います。

キッチンからの眼差し…

南 淳

食事指導担当、社会科

呼子キャンプに引率として参加したはずが、…いつの間にかキッチンのスタッフとして5日間を過ごしていた南。しかし、だからこそ見えた部分、新たな視点があった。それは遥か9年前、自分もレンジャーをしていたことがあるからこそその視点があった。

まずはレンジャーだけのプレキャンプ、士気を高めて中1中2のキャンパー受け入れの最終確認は無事完了!!しかし、この段階で何故か「もう帰っていいかな～」と自然を満喫してしまったり、夜中(...朝方?笑)もはしゃぎまくっていたり～…。これから色々な事象に立ち向かっていく5日間の生徒諸君の姿を、南はキッチンの中で高

3の斎藤望と煙除けのゴーグルを着けて、火と格闘しながら見守ることになった。

2日目には中1中2のキャンパー到着～!!レンジャーは気合入りまくりだったね～。さて、キャンパーはバスの長旅でちょいとお疲れモード。しかし、次の日からは自然の楽しみ方を味わっていたのでは?自分達のねぐらは自分達で作り、時には自分達で料理を作って味を競い合ったり…。レインコートと長靴が当たり前の服装となっていたあの生活は普段では味わえないよね。その中でも一番南の印象に残っているのは、…川で無防備に冷やされているトマト・きゅうり・ブドウ・バナナをそのままムシャムシャと味わい、分けのわからない冗談話に人目をはばからず大笑いしていたこと。あれは大自然という状況であったからこそその光景。キャンパーにとってもレンジャーにとっても良い経験だったのでと痛感している。

自分達で何かを作り上げる。自分1人ではできない…皆で声を掛け合っ、息を合わせて作り上げる。その結果、レンジャーは自分達で用意した様々な企画を皆で作りに上げた。キャンパーは自分達の生活をメンバーと共に作り上げた。だからこそ、生徒諸君の汗混じりの涙を見ていてグッとくるものがあつたと思う。…南はかまどの隅から、キッチンスタッフの大きな成長を目の当たりにし(2日目以降の団結力は『史上最強』!!)、レンジャー全員一人一人の成長を見せ付けられ(お疲れ様!!)、中1中2のキャンパーの新たな一面を楽しませて貰った。(楽しかったらう～!?)

キャンプで感じた達成感、自分自身への人間性に関する問いかけ。これらを体感することが出来たなら、もしくは少しでもキッカケを掴みかけたならば、この先必ず何かに結びつくと思う、必ず。事実、南自身、遥か9年前のレンジャー経験が今でも『初心』に戻るキッカケとなっているのである。

改めて森のキャンプの生徒への意義を感じた5日間だった。

## <ネイチャーゲームキャンプ>

野島大輔

社会科

参加キャンパーの感想文( 印) をお借りして、報告します。

「今回のキャンプはこの学校に来てはじめてだったので、結構楽しみだった。」

ネイチャーゲームキャンプは、近場の箕面市内のキャンプ場(箕面教学の森)とはいえ、そこはさすがに千里国際学園屈指のアスリート馬場先生の計画・立案によるスーパープログラム、集合からいきなり雨中登山40分という出だし。「雨もまたええもんやで！」とスイスイ登り坂を駆けて行くミスタートライアスロンの背中を見つつ、心の準備ができていなかった人は、一瞬ひるんでしまったかも。しかも、キャンプ場では、私達がこの夏最初の“ニンゲンの”泊まり客、ときて、ロッジには既にお迎えさんたちが一斉のご挨拶。

「一番さいしょにロッジのそうじをした時、ガン...、と思いました」

「ネイチャーゲームキャンプに行っただけで悪かったことは、まず、虫が多すぎです。それと坂が多くて長いです。」

そうそう。そうなんです。意外にこのキャンプだってワイルドなんです。初日のプログラムは、自然の中の“色”探し。ジャンケンで選んだ2枚の色紙に最も近い色をグループで探すんだけど、自然の中に絵の具のようなミドリ色って無いことにびっくり!

初日の夜は、雨の中、初めての自炊。しかもこれがジャンケンで選んだ食材を使って、グループ対抗の“料理の鉄人”大会だったなんて(採点役の先生達が、役得で一番楽しんでました)。ちょっとごちなかつた学年縦割りのグループが、ゲームや炊飯を通じてだんだん結束を強くして行きます。

「ぼくは、教学の森箕面市立青少年野外活動センターで一番印象に残っていることは、初めて作ったハヤシライスのことです。そして、このキャンプに来て少し友達ができただけよかったです」

ロッジの夜は、虫さんたちとの共存

生活。大阪の夜景を見下ろす真っ暗な山の上はご機嫌なのだけれど、わーっ、昼間ロッジの窓をきちんと閉めておけばよかった...

翌日はきのこ取り競争が午前のプログラムの山場。

「きのこ取りがまたおもしろかった。でっかいやつとか毒きのこ、薬用きのこ、食用きのこいろいろとれておもしろかった」

箕面のキャンプ場を一周するだけで、何十種類ものキノコがあるなんて、またまた驚き。毒キノコは触るだけなら大丈夫、と教えてもらったけれど、それでもコワコワ摘み取る人も。毒キノコ専門になってしまったグループもあったりして、珍しい“コレラタケ”(これももちろん、王様級の毒キノコ!)を見つけてなぜか誉めてもらったグループもあったよね。

「オリエンテーリングも...、目標を探すのは楽しかったです。でも、地図にないものがあったり、その逆があったりしました...?」

地図とコンパスを手に目標を捜していくと、山道を駆け回るのもあっという間。遅刻で減点のグループがひとつも無かったのは快挙、快挙。そうそう、千里国際学園のキャンプとしては大変珍しく、これだけハードに競争しながら、ケガ人・病人が一人も出なかったのも、大快挙!

二晩目の食事になると、自炊も手馴れたもので、火起こしも野菜きざみも快調、快調。ときどき上がる悲鳴はご愛嬌。キャンプファイヤーでは全員でバレーボールをしたり、電車になりました。

「大学生のカウンセラーのパターさんはかわいくて、アズキさんはおもしろくて、アートさんはやさしかったです。」

「学年を越えて、日頃の学園生活では仲良くなれない人とも仲良くなることできて良かったです」

この日の夜は幸い晴れてくれて、



キャンプ場の屋上から、大阪の夜景見物、じゃなかった、星空観測。20倍の望遠鏡を覗かせてもらおうと、星の色までよくわかる。夜空って、こんなに表情豊かだったんだね。

「僕にとって一番楽しかったのは、天体観測です。すごくよかったです。かなり良かったです。最高に楽しかったです」

このキャンプでは、いつのまにか、“大縄跳び”が大流行。そして、いつのまにか、それもグループ対抗の競技種目になって、朝一番からゲームのポイント制に。そうじも片付けもチームワークも、採点されているノダ。

「なんでも班の得点になったりして、そこまでやらなくてもいいと思ってたけど、最後にはちゃんと総合得点とかあって良かったです」

またまた雨に降られた最終日、この日はやや苦手の種目が詰まっていた、午前中はかなり細かなデザインのウッドクラフト。糸ノコギリの刃を、さて何十枚飛ばしただろう...?(あとで聞いたら百均で買ったものだったそうです)。10年生のケイジ君作の、のどかなデザインの作品に、投票の人気は殺到しました。

もう一つ、この日てこずったのが毛布の畳み方。使っていない毛布を全部床に広げたグループは、一生畳み方を忘れられないくらい、何度も何度も畳んでいましたね。

表彰式。いずれも2点差の大接戦ながら、優勝を勝ち取ったのは2班、馬場大統領作の、特製の額がご褒美。1班ネイチャー賞、3班は教学の森賞がそれぞれ渡されました。お疲れ様!!

## <海洋キャンプ>

井藤真由美

英語科

3年目となりました海洋キャンプ、去年に引き続き徳島県の阿南YMCAでお世話になり、無事に帰ってきました。7月4日～7日。天候に恵まれて(暑すぎることはなく、大阪が大雨のこの時期にも雨にたたられませんでした。)今年の引率者は真砂先生(理科)、森先生(音楽科)、そして私井藤(英語科)。日常とは違う大海原の前にみんなのいろんな面を見せてもらったり一緒に楽しく過ごせたことや、生徒たちに負けじと3人でひそかに猛練習(!?)してキャンプファイアードで出し物ができたことは、私たち教員にとってもとてもいい思い出となりました。

生徒の皆さんの様子や感想は、今年キャンプリーダーを務めてくれた11年生の仲谷環さんと10年生の加美野容子におねがいしましょう。

仲谷 環

海洋キャンプリーダー、高等部2年

今年のSISキャンプで、私達生徒(51人)は徳島にあるYMCA阿南国際海洋センターで四日間過ごしました。少々長かったバス旅ではバスのレクリエーション係(あきひろ、テッド、よしゆき)が盛り上げてくれ、「もうバスレク終わり?もっとやってほしい」と思ったところでバスは携帯の電波が届いているか届いていないかの分からないような目的地へ到着しました。そこから、私達の都会から離れた田舎暮らしが始まったのです。

メンバー同は、初めて顔合わせをしたときシャイで、一時はこのキャンプはどうなるのかと心配しましたが、そんな心配も無用で、最終的には私達を含む高校生メンバー、中学生、は互いに助け合ういい友達になれました。

あまり書いてしまうと来年このキャンプに参加する人に申し訳ないので大まかにお話します。まず、ついた初日にはカッターをこぎました。カッターとは15人のりの小船です。これに乗ることによって、団結力とはどんなに大切なのかを実感させられました。二

日目はヨット、カヤックの講習を受けました。これは実際にやってみないとどんなに楽しい思いをしたかわからないでしょう。これがつまらなかつたという人は、絶対いないと思います。夜には花火、肝試しを行いました。井藤先生、真砂先生、森先生、YMCAのお

じさん おばけの役お疲れ様です。三日目はグループごと、4人乗りのカヌーで無人島へわたりました。私のグループのカヌーには穴があいており、進むたびにだんだん水が入ってきました。とても怖くて、みんなで一生懸命沈む前に岸に向かって頑張っただのを覚えています。無人島では泳いだり、魚釣りをしたり、バレーボールをしている人や、ギターを弾いたり、みんな自由な一時を過ごしました。その中で数人はごみ拾いに参加してくれて、島に流れ着いていた色々な物を回収しました。みなさんありがとうございます。

今思うと、三泊四日は長いようで短かったです。グループリーダー、サブリーダーのみなさま、グループをより強い絆で結んでくれてありがとうございます。そして、決して欠かせないレクリエーション係のみなさま、色々なイベントの企画楽しかったです。ありがとうございます。食べ物係さん、毎日私達の食べ物を盛ってくれたりしてくれたことを感謝します。なくてはならないしおりを製作してくれたしおり係さん、お疲れ様です。そして、このプログラムを支えてくださった、先生方、生徒の親のみなさん、YMCAの方々、私達に楽しい思い出をどうもありがとうございます!

この海洋キャンプで知り得た事

加美野容子

海洋キャンプリーダー、高等部1年

私にとって初めてのSIS海洋キャンプで、私は全体リーダーを務めることになりました。そんなこと本当にきちんとやっていけるのだろうかと不安に思っていたのとは裏腹に皆の心強い



サポートとYMCAの皆さんに助けられてどうにか無事にやり終えることができました。

始めは皆団結力も何も無くて(特にキャンプ前のミーティング時)、中学の子はシャイで高校の子はバラバラに行動しているしどうなるものかと不安でしたがいざキャンプ本番に入るとそれぞれが精一杯皆をまとめようとしたり、楽しませようとしたりすごく充実したキャンプにしてくれました。

私は頼りないリーダーで、みんなの迅速な行動力で助けられました。それぞれのアクティビティーも力を合わせて本当に皆一生懸命に楽しんでくれたので私も安心しました。

きっと表向きアクティビティーや行事では見えないところでも皆それぞれの絆を深めたことでしょう。言ってしまうと単なるキャンプがもし誰かの人生やこれからの人間形成に大いに役立てたり大きなきっかけになったらそれはとても素晴らしい事で、またその素晴らしいキャンプを作り出したのはみんな意外の誰でもないのです。

キャンプとは単なるきっかけで、そこで産み出される物が一番大事なものであって、またそれを産み出す事ができるみんなはほんとうに素敵な仲間たちだなと。私がこのキャンプで知り得た事はそれです。

リーダーとしてという事より1人間としてこのキャンプは本当に大成功に終わった素晴らしいものだったと確信しています。たくさん話してくれた先生方、協力しあって助けてくれた皆、YMCAの元気な皆様、どうもありがとうございました。

## <写真文芸帳>

斉藤 数  
理科

写真文芸帳・キャンプは、大きく2つの部分から成り立っています。第1は、関西のいろいろな場所を1泊2日で回り、思い出に残った景色や人との出会いなどをカメラに収めます。第2は、学校のコンピューターでプレゼンテーションソフトを使って、撮ってきた写真を、たとえば、地域紹介映画風に仕上げたり、音楽を入れて柔らかい感じのやすらぎ映画風にまとめたり、写真詩・写真童話風にまとめたりして、最終的にプレゼンテーション作品を作るという企画です。各生徒は自分のもの以外に他の参加した生徒全員の作品をCDの形でもらいます。

今回は、和歌山県の東側の海岸に沿っていろいろな場所を撮影してきました。初日は、断崖絶壁の風景で有名な三段壁、平らな岩場の広がる千畳敷、大昔からの漁場として、また濃い口醤油の発祥地としても有名な熊野古道の宿泊地である湯浅の町を回り、湯浅城にて宿泊。翌日は、海南市にあるヨーロッパの港町を再現したテーマパーク「ポルトヨーロッパ」へ行き撮影。ここは魚の大きな市場である黒潮市場があることも知られています。最後に和歌山市に戻り、和歌山城を撮影して終了となりました。

最終日の3日目は、学校に集まり撮影してきた写真をもとにコンピューターソフトのパワーポイントを使って、プレゼンテーション作品を作りました。

今までのキャンプでは、歩く距離が長くて疲れてしまうとの意見が多く聞かれたので、今回はバスで各場所を回るとともに、自由散策の時間を多くとって生徒の体調によって自由に写真を撮れるように計画しました。散策ではグループでのばらばらな行動となりますが、毎回事故もなくほぼ時間までに全員戻ってきました。また、宿泊は、湯浅城の天守閣に泊まったので、夜も朝もとてもよい眺めを楽しむことができました。2日目の黒潮市場でのバーベキューランチも好評でした。天候も酷暑というほどではなく〔2日目

は小雨・くもり〕、訪れた各場所で適当量の写真を撮ることができました。コンピューターソフトの使用方法については、コンピューター担当の合志先生の指導の下に、本校卒業生の萱原千洋さんも手伝ってくれて、参加者全員能率よくプレゼンテーション作品を作っていました。出来上がった作品のCDは図書館にありますので、ぜひご覧ください。

このキャンプの終了時には、次ののが生徒に配られました。

各生徒が写した全写真を収めたCD。および、写真のプリント。

参加生徒全員のパワーポイントで作成したプレゼンテーション作品のCD。

全行程のスナップを記録した写真に、生徒によってメモのつけられた文芸帳アルバムを1冊ずつ。

以下は、生徒の感想文です。

依藤祐介〔10年1組〕

今回は初めて泊りがけで写真を撮りにいきました。和歌山の風景や人などは大阪とはまた違う自然な感じでした。海もきれいだっし、他にも自然がたくさんあり、町に出ても昔ながらの町並みが広がっていて、違う時代にいってしまったような気がしました。また、湯浅城の天守閣に泊まったり、しょうゆ工場を見学に行ったり、黒潮市場で自分で焼いたバーベキューも、どれも印象に残っているし、なかなか体験できないことなので、とても楽しかったです。

林はるか〔10年4組〕

「写真文芸帳」で私たちは和歌山の名所（三段壁、千畳敷、湯浅の醤油工場、熊野古道、湯浅城で泊まった、ポルトヨーロッパ、和歌山城）を巡りました。参加者は全員で7人〔先生を含めて9人〕でとても少なかったのですが、皆とすぐに仲良くなれてよかったです。全員一人一台ずつデジカメを持って、きれいな景色・歴史を感じさせるもの、面白いものをメモリカードいっぱい〔またはそれ以上〕に収めました。キャンプというよりは、旅をしている気分でした。〔湯浅城では、おいしいご飯を食べさせていただいたり、温泉に入って皆で浴衣を着たり...〕

帰ってきた次の日には、学校に集まって文芸帳作りをしました。図書館



ほしいです。このキャンプに参加して、本当によかったですと思っています。

縄田健人〔10年1組〕

文芸帳のキャンプは初めて行ったのですが、行ってみてとても良かったです。思ったよりも色んな所に行けたし、キレイな写真もたくさん撮れました。一番印象に残っているのは、三段壁で、ああいうところにはじめて行きました。海から自分たちがいた場所はとても高く、連続殺人事件のドラマに出てきそうな所でした。海も青くてキレイだったし、空も雲一つなくてドコまでも続いていたところが、とても目に浮かびます。その次の日に行ったポルトヨーロッパも人がほとんどいなくて、貸切みたいなき感じだったので、急流すべりとか乗ってとても楽しめました。斉藤先生が買ったスイカもおいしかったです。とにかくイイ写真が撮れたので楽しかったです。

安井実穂〔12年1組〕

“写真好きかも...”と思い始めて未だ其れ程久しくは無いけれど、十二年やし、一回ぐらいキャンプ行っちゃおう？という思いと、自分は本気で写真が好きなのかという疑念を確かなモノにしたく参加した写真文芸帳。途中雨に降られてしまうし(傘は忘れた)、前日に充電したバッテリーを家に忘れてきたし、正直凹みました( \_ ; )それでも此の三日間楽しく過ごせたのは、やはり一緒に過ごした(良き意味で個性的な)メンバーの御蔭でしょう。斎藤先生、土佐先生を始め、此の旅行で関わった皆さん有難う。そして、自分は写真好きかも？と何となく思っている人人、気まぐれな旅をするのが好きな人、次回は是非参加してみてもは如何でしょう(^\_^)b

## <チャレンジキャンプ>

野村 岬

高等部3年

今回のチャレンジキャンプ参加者は総勢15名。12年生3名、11年生9名、10年生3名の(前回に比べれば)大所帯、なので2つのグループに分かれました。A、B各グループに2人ずつ過去登山経験者(Aに私と新見君、Bに川喜田さんと木村君)が配置されました。毎回お世話になっているOBSのスタッフは前回も私たちをサポートしてくれたアヤカを筆答に、しのぶ、まえっち、トミー。この4人も陰ながら見守ってくれましたが、もっと陰からまもさんも見守ってくれていました。

初日はとりあえず肩慣らし、OBSに着いてすぐのロッククライミング。肩慣らしと言ったって大阪から数時間電車で揺られた直後。両手の握力と両足の膝の力がなくなることを請け負います。ずるずる滑る岩の壁にへばりついて登る姿はやっぱりそんなにかっこよくはない、ですが「自分の力だけで壁を登る」と不思議と「もう1本」と挑戦したくなるのも事実でした。なんででしょう、不思議です。その夜は次の日から2日間行かう白馬山登山の用意。アヤカやしのぶの説明を聞きながら順番に荷物を私の腰の高さまではあるだろう大きさのリュックに詰めていく作業。布製品はナイロン袋に入れてひたすら圧縮。いかに寝袋を小さくできるかに私はかなり真剣に取り組んでいました。

翌日は4時半に起床、前日まで低くたれ込めていた雲がなくなって晴天。7時半には白馬の麓、猿倉から登山を開始。今年は雪が多く雪渓は2年前よりも大きく、しかも2、3日前の雨のせいでできた大きな亀裂が神出鬼没にあたり……。登山1日目は山頂の手前の山小屋近くに自分たちでテントを張り眠りました。気温は夏だけどマイナス、当然寒さに震えました。(男子のように4人ぐらいでぎゅうぎゅう詰めなら寝辛くとも暖かかったかも知れませんが)けれど、前回より天気良かったため、夕日、満天の星空、ご来光(朝日)、登山の醍醐味とも言えるものが存分に味わえました。次の日丸

一日かけた下山はものすごいハイスピードでした。出発時間を自分たちで6時に設定、そのために起床は4時半。そこからはひたすら足を運ぶ。ただもくもくと。休憩も2年前の半部か少ないぐらいしかとらないで、進む進む。目的地にはBグループより1時間以上も早くつき、おかげで蓮華温泉にはかなりゆっくりと浸かることができました。

最後の日、前日までの登山やらの疲れから足は本当に軋み出しそうなほど動かないのに私たちのAグループは10kmのランニング。炎天下、前夜の雨で湿度も存分に上がる中をひた走る。ゴールの日本海を目指して。走っている間はほとんど1人きり。暑さと疲れでへばりそうな自分を励まし(ごまかし?)ゴールに着けば、先にゴールしていたメンバーから「おつかれさん」との声が。私も同じように後続のメンバーに「おつかれさん」と声をかけていきました。完走できたうれしさから、はたまたランナーズハイになっていたのかゴール直後はなぜか笑顔だった気がします。この後のへとへの軀を引きずり戻った大阪は異様に蒸し暑かったです。

今年もキャンプの名簿を見て「あ、やっぱり……」と思ってしまった。どう見たって性別の欄にMばかり、Fは1つ。高3の最後の夏休みのキャンプとして私が選んだのは「チャレンジ・キャンプ」。前回このキャンプに参加したのは高1の夏でした。このキャンプ、7月1日から4日の3泊4日の間に白馬山登山なんかもしたりして、運動量は半端じゃない。女子が少ないのもしょうがないのかも知れないですね。前回も女子は2人で今回は1人だし。けれど、チャレンジキャンプをサポートしてくれるOBSスタッフの中に前回お世話になったアヤカが居たコト、シェパード先生という登山のベテランも居たので(体力的には大いに心細かったですが)心細いことはありませんでした。現地に着いてみたら、案の定、初日から男子と同じようにロッククライミングをこなし、結構な重量の荷物を背負って登山をしました。最後には10キロランニングなんていうおまけも付いていまいした。1度参加し



て、どれだけ辛いかが身にしみてわかっていたのに今回もこのキャンプを選んだのは高3という自分と向き合うためでした。「受験」という現実が迫ってきて、少しのことでよくよと悩んでしまう自分に自信(自身)を取り戻したかったのだと思います。

白馬の登山では果てがないように感じる雪渓を一步一步登って、気がつくとその景色は広がり、登り始めた所がとても小さく見えていました。自分が登ってきた道の長さやしんどさよりも「着実に進んでいる」という実感に満たされました。山頂近くでテントを張り夕日や見上げた空にこぼれるぐらいに輝く星々、翌朝4時半という驚異的な時間に起きて見た朝日も、ただただ綺麗でした。最後の日の10kmランニングはひたすら自分との戦いでした。12年になってPEもCPRだったり運動とは無縁になっていた私にとって10kmという距離は一度走ったことがあるとはいえ……。 「歩きたい」と思う自分と「今更歩くなよ」と思う自分、なんとか後者に勝敗があがり完走することができました。

4日間体を動かしチャレンジを続けました。そして振り返れば自分たちの成果が目に見えるモノだけでなく、実感として得ることができ無くしかけた自身を取り戻させてくれたように思います。アクティビティー毎に設けられたシェアリングの時間も自分と向き合うことも一緒に行ったメンバー達と話し合うこともできました。もう、この先このようなキャンプにあのメンバー達と行けないと思うと、とても寂しく思います。けれど、それもこのキャンプのすばらしさの要素の1つなのだろうと私は思います。チャレンジキャンプはもしかしたら、人生の縮図のようなモノかも知れませんが。

## <100キロウォーク>

目指すは完歩  
相良宗孝

保健体育科

あまりに過酷なため、1昨年中止になった100キロウォークが、リクエストに答え帰ってきました。リベンジに燃える数名の12年生を含め18名(男子1名、女子17名)が参加しました。今回は、100キロウォークの過酷さを十分に考え、ミーティングの時から、普段バスや自転車で通うはずの通学路をウォーキングに切り替えたり、夕方に練習をしたりしてはどうかなどと、練習を十分にこなすように促してきました。

しかーし!いざふたを開けてみると、ほんの一部の生徒以外、ほとんどが練習をしていません。理由を聞いてみると、「100キロ歩く前から、練習として歩いたら、疲れて足が痛くなって、100キロウォークの当日に歩けなくなるやん??」ハアー...、とても不安に思いながら当日を迎えることとなりました。

7月1日(初日)

JR堅田駅に9時に集合し、記念撮影の後、さあ、出発!

これから、琵琶湖東部沿いをひたすら北上、目指すは日本海、気比の松原だ!

幸か不幸か、初日はあいにくの雨。しかし気温21度と、歩くにはなかなかのコンディション。皆、楽しい会話をしながら2、3人のグループを作って歩く。しかし、20キロ地点の休憩ポイントあたりから、皆の顔から笑顔が消え、ストレッチなどをして次第に重くなった自分の体をほくし始める。午後5時すぎにゴールし、天然温泉で体を癒し、やっと忘れかけた笑顔が戻る。

7月2日(2日目)

昨日の天気からうって変わり、朝から雲ひとつない快晴。本当だったら素直に喜ぶのだが、100キロウォークの参加者にとっては喜べるものではない。気温も昨日から7度もあがり28度。昨日の疲労や筋肉痛などで、朝から体調が十分でないのに加え、今日の行程が一番長い40キロ弱。いよいよ、本当の過酷がやってきた。

参加者は、一人で歩くようになり、ペースがぐっと落ちるものも出てくる。また、休憩ポイントでいったん腰をおろそうものなら、腰を上げるのに、ものすごい気力が必要になってくる。それでも、歯を食いしばりひたすら歩く。宿舎についたころには、本当に疲労困憊であった。それでも、この日の豪華料理で生き返り、疲れを忘れるかのように、何人かはカラオケを夜遅くまで楽しむ?(うーむ、どこにそんな元気が残っていたのか・・・?)

7月3日(3日目)

さあ、最終日!この日は今にも雨が降り出しそうな曇り空。コンディションは悪くないのだが、この日は琵琶湖を抜け、山道に入る。景色に変化が無く、精神力が問われるコース。もう、今日が最後、完歩するんだーという気持ちだけで、ひたすら歩く。午後に入り雨が降ってくる、気温もぐっとさがり、寒さとの戦いになってきた。

ずぶぬれになりながら、傘もささず、ゴールを目指して歩いている。

こんな最終日にドラマがあった。それは、参加者の一人が、いつ、リタイヤしようか考えながら歩いていると、1台の車が彼女に横付けする。「何事だ?彼女は大丈夫か?」っと心配する先生をよそに、そこには美しい人間ドラマがあった。

なんと、ずぶぬれになって歩いている彼女を心配し、傘をくれたのだ「皆、ようさん歩いているけど、あなただけ傘持っていないから、これ、あげるから使って!がんばってな!」

この弱っているときに人の親切に触れ、感動した彼女は号泣!リタイヤしようになっていたのに、再び元気を取り戻すことが出来た。

そんなこんなで、いよいよゴールが近



づいてきた。最終の休憩ポイントでの給水を経て、あと残り、3キロ弱。もうここまできたら、完歩しかない。残り1キロを切ると最後の力を振り絞り走り出すものまで出てくる。(は?まだ、そんな元気があったの?高校生の体力、恐るべし!)

最後は、雨のなか、自分たちが作ったゴールテープに感動のゴール!天候がよくないので、気比の松原の景色はよくなかったが、そんなことはどうでも良い。皆とがんばった最高のキャンプでした。

結局、18名中、完歩者11名という結果に終わりました。

引率教師は、田中、高橋、中尾、相良の4人でした。

参加者たちに書いてもらった何人かの感想の一部を以下に載せておきます。

自分でもやれば出来るんだという、達成感を感じるためにこのキャンプを選んだ。本当に達成感を感じたし、友人も増えたし、自分の限界の挑みがいのあるキャンプでした。疲れたけど、本当に楽しかったです。

歩き終わり、改めて自動車の大切さをしりました(笑)次々と周りの景色が変わっていくのが気持ちよかったです。おかげで今後、近所のファミリーマートには歩いて楽々いけそうです。

一昨年達成できなかった、100キロを2年たった今、達成できて本当にうれしく思います。ひたすら歩くには体力もそうだが、それ以上に精神的な自分との戦いでした。こんなでっかいことをやり遂げた自分に感動しています。

(次ページ★に続く)

## <心の旅>

青山 比呂乃

図書館

SISの高校生が、1996年以来毎年訪れている高野山恵光院に、今年も行ってきました。今回の参加者は、高3のみの23名と引率の難波、青山です。皆が最終日に振り返って書いた文章からそのまま、まとめてみました。

恵光院住職の法話

- ・その時は、なんで法話とか聞いたり、阿字観しなあかんねん、とか思っていたが、今思えば法話はとてもためになるものだったし、阿字観は自分自身をコントロールできるようになるためのものだったからバリよかった!!
- ・「すべてのものに感謝」親や自然というあたり前のもの、事に感謝の気持ちを忘れずに接していかなければいけない。
- ・この3日間、自分は甘いと思った。1日目の法話の時に、「努力なしではむくわれない」みたいなことを言っていたけど、まさしくその言葉は私の心にしみた!!!
- ・学校がある時は毎日忙しくて自分のことはいつも後回しだったような気がする。けど、この旅でやっと自分のために時間が作れて、悩みにも向き合えて本当に満足。法話での一言一言が、その悩みを解決する...、というよりは、苦しみを和らげてくれた。どうやって苦しみを少しでも和らげるか...。私たちには十分それができる力がある。この旅は私にその事を教えてくれた。来てよかった。

- ・ここでじゃなきゃ出会えなかった方々にも、本当に感謝でいっぱい。

「話の裏側にある真意を見抜ける目を持っていただきたい」というお言葉には、心底感心させられた。

- ・いくつかとてもいいなあと納得するものがありました。いつもの生活だとすごくあわただしいけど、その事を時々思い出して、忘れないようにしたいと思います。

阿字観（座禅のようなもの、観想）

- ・3日間通して、キツかった。
- ・自分の状態をキープし直せるステキな時間で、想像していたものより楽しかった。
- ・初めてやった時は全然集中できなくて、ほんまつらかったけど、慣れたらけっこう心が落ちついてよかった。
- ・阿字観ではみんな声を出さず集中し、遊ぶ時はお坊さんも一緒にみんなで遊んですごく自分にとっては良かった。
- ・慣れたら気持ち良くなります。1年目とかは本当に眠くてつらくて大変だったけど、今回は、すごく自分の中で“良い”感じだった。
- ・阿字観をする前に何か食べてた方がいいです。お腹が鳴って集中できなくなるから。あと夜はちゃんと寝ないと、眠くてしんどいよ。

作務（お寺の掃除）

- ・主に廊下を拭いたりしたけど、みんなでしたから楽しくできたし、とても達成感がありました。
- ・すごい楽しかったです。
- ・阿字観や作務という経験は“心を磨く”ことになったと思います。

諸堂拝観（高野山の寺、博物館の見学）

- ・2日目の諸寺拝観では、北さん（お世話をしてくださったお坊さん）のガイドでいろんな所をまわられて、自分にとってはすごくいい経験だった。

- ・仏様は見るだけで僕を癒してくれるし、すごい興味があってわくわくしたし、仏様や仏像が置かれている寺とかは神秘的なものを感じっぱなしでとても楽しかった。

写経

- ・時間外までやらせてもらえて満足。
- ・心を落ち着かせ、集中力を養うのには最適だと思いました。

精進料理

- ・全ておいしかった。食事は満足です!!
- ・もっと寂しい料理なのかと思っていたけど、バラエティ豊かでとてもおいしかったです。
- ・まさに「おふくろの味」!!!って感じで、飾りっ気がなくシンプルではまってしまった!!!

融解の集い（お坊さんたちと打ち解けるためのレクリエーション）

- ・お坊さんとのふれあいのゲーム大会はむっちゃよかった!!むっちゃ仲良くなれたし、今後のためによかった。はじまる前は色々な問題を抱えていたが、お坊さんや友達と話したり、話をきいたりして、自身の考え方が少し変わりちょっと楽になれたし、心も癒された。

肝試し

- ・ものすごーく恐かったけど最後の北さんの言葉で「物事には色々なとらえ

(前ページ★の続き)

3日間ずっと帰りたいと思っていたけど、体力の限界まで、足を前に出し続けたことが、何かをがんばらなければいけない時の、自分のためになったと思います。一緒に歩いた皆、先生、ありがとう。高校生活最後の充実したキャンプでした。

最初は、100キロの大変さを考えず、おいしいご飯、宿などの言葉に引かれて、しんどくても豪華なんだなあって

思い参加しました。実際に歩き始めると、疲れすぎて精神状態もおかしくなるほどでした。でも、あと少し、あと少しと自分を励ましながらかんばり、とうとう100キロを完歩したときは本当にうれしかったです。一人では絶対に出来なかったと思います。このキャンプに参加できてよかったです。



写経に没頭

方がある」というのを聞いて心を打たれました。

全体を通して

- ・引き締まったというよりも、自分に素直な気持ちになれたし、心が澄んだような気がする。

- ・この旅は、何より自分の考え方や視点、あと心がりフレッシュされる気がします。

- ・私はこの旅で少し自分を見つめ直せた気がする。友達の大切さも学んで、自分の日頃の行いが少し恥ずかしくなった。これから進路を決めなければならないが、後で自分を恥と思わない悔いの残らない決断をしたいと思う。そして何より、いつも自分を好きでいたい。この旅は一生忘れないだろう。

- ・何よりも心から感謝することを学びました。皆の助け・支えがあってこそ、何事も可能であることを、ここの生活で学びました。ただ、まわりの皆がケータイを持っていたりして、今一つ「聖地」という気がせず、もったいなくて残念でした。

- ・恵光院のat homeな雰囲気がとても居心地がよかったです。和みました。恵光院+高野山+心の旅、最高です。

- ・みんなでやる事はみんなでやって、自由な時間は自由だったから、本当に充実していた。

- ・とにかく楽しいキャンプだった。ぜひもう1泊したい。

- ・このキャンプでできた事は、友達と分かち合うことと日本をもっと知ること。

- ・この旅は、とてもゆっくりしていて、それでいて規則正しい生活が送れます。でも何の目的もなく、ただ

ぼーっとするためにこようと思うだけだったら、ちょっとしんどいかもかもしれません。

- ・この旅には何か小さくても絶対一つ目的を持っていった方が良い。ただ何となくダラダラ過ごすにはあまりにもったいないし、ムダです。

私は明確な目的とそれにつながる一つの

願い事があったので、阿字観や護摩供養の時間を有意義に過ごせた。去年はそういう目的がなかったので、ただ時間が過ぎていただけだったような気がした。

- ・行く前は、「何をしたいかちゃんと考えておかないとヒマになる」と聞いていたけど、全然そんなことはなかった。

- ・今回の旅は内容が非常に濃かった。あと1日くらいここに居たかった。でも毎日の生活に比べると、ここでの生活はとてもしラックスできたと思う。

- ・思っていたよりも内容が盛り沢山でした。その点、良い面と悪い面がありました。よい面は、様々な体験ができた事です。悪い面としては、長い時間一人でいられるような時間が少なく、スケジュールがタイトで自分の「心」を探求する余裕があまり生まれませんでした。もう1泊増やした方がよいと思います。それによって、時間だけでなく、精神的にも大分ゆとりができると思います。

- ・夜一人で過去や未来のことを考えるのはいいと思うけど、人に話を聞いてもらい、また相手の話を聞くことで新しい別の考えも生まれてくるので、そういう時間ももっと必要。

- ・もう少し“自由にゆっくりできる時間”というのがほしかった。“自分一人で自分と向き合う”ことで、色々なことを考えられると思うので、あと1日は増やしてみてもいい？他のことは、普段絶対に触れる事のないような事ばかりなので、続けて行ってほしい。

- ・私は2年目だけどそれでもやっぱり、いっぱい発見はあった。皆さん変

わらずに優しくなったけど、私の方が変わった分、見れるものもその見方も変わったのだと思う。

- ・ここにくると新鮮な気持ちになれる。今年は受験をひかえているのでここで得た集中力と新鮮な気持ちをうまく続けられるようにしたい。ここでできない経験が多くあると思う。そしてその経験を必ず将来への良い道につないでいけるはずだ。

# 特集「私の夏」

## NY大停電に遭遇！

野島大輔  
社会科

去る2003年8月14日、アメリカ4都市を巡る教員研修旅行の初日、空港に降り立った瞬間、なんとニューヨークの「歴史的な」大停電を体験してしまいました。

東京成田から12時間のフライトの後、ニューヨークのJFK空港に夕刻到着し、飛行機を降りて入国手続きに進む列の途中で、突然に遠くから弱い地響きが聞こえたように感じたその直後、バシャン、と見事に照明が一斉に消えました。空港にはバックアップ電源があるようで、最低限の明かりは間もなく回復しましたが、税関の職員たちが対応の打ち合わせをしたために、非米国民のゲートの列は長蛇となり、通関に1時間以上も待たされました。私の荷物は幸い運搬機械に入る前だったようで係の方が運んで来てくれましたが、ベルトコンベアが動かないため、同行の方の荷物は宙吊りになって出てきませんでした。2時間ののち外へ出ると、エスカレーター、エレベーター、みな停まっています。システムがダウンしたため、チェックインできない旅行客達がロビーに溢れ、途方に暮れています。

この時点ではまだ停電が北米の東部一帯に影響が及ぶほど大規模なものとは気付いていませんでしたが、待ち合

わせの送迎車の運転手さんによると既にマンハッタンは大混乱で、普通40-50分もあれば着く所を、今日は何時間かかるかわからない、もしかするとホテルに到着できないかも、との説明を受けて、一同ようやく事態の深刻さに驚かされました。あとで東京の旅行社の方に聞いたところによると、まだ空港に無事降りられた後の事でよかった、仮にその時に空中に居たなら着陸地点を他の遠い空港に振り返られて、旅行社としても支援のしようがなくなってしまうところだった、とのことでした。

さて、そうはいつでも泊まる所に行かないとどうにもならないので、ツアー・リーダーの渡部先生(日本の学校教育にディベートを導入した第一人者で、9-10年生「基礎社会3」で読んだ、ご存知『討論や発表を楽しもう』の著者の先生ですね)の判断で、とにかくマンハッタンに向かうことに。既にいくつかのブリッジは進入が規制されていて(地下鉄などが全て停まっているので、住宅地へ退勤する歩行者専用のルートになっていたようです)、トンネルは大渋滞。しかも信号機が消えているので、休暇返上の警察官の整理もむなしく交差点は大混乱。ガソリンスタンドが稼動していないので、車を止めて座り込んでいる人も。抜け道に詳しい運転手さんの機転で、何とか約3時間の所要でヒルトン・タワー・ホテルに到着しましたが、途中警察官との緊迫したやりとりや歩行者の怒号を受けるなどして、長いフライトの後、身も心もさらにへとへと。

ホテルのロビーは真っ暗で、床に座り込んで居眠りをしている行き所のない人々を掻き分け、何とか荷物を持って進む。これまたコンピューターのシステ



②真っ暗で混乱するホテルロビー

ム・ダウンのため、チェックインがマニュアルで行われていて、フロントはこれまた長蛇の列。海外事情に詳しい先輩の先生(大田校長先生の元同僚の方だそうです)の粘り強い交渉の末、何とか部屋のキーを確保できました。8階へごあんなーい、と聞いてホッとしながらスーツケースを転がしつつ、はたと気付く。

「エレベーター、動いてない...!」  
非常階段を登るしかなく、重い荷物は交替でかつぎながら、テクテクと汗かき高層ビルの中を這い登る、泊まり客たちの集団。ホテルの従業員は、蝋燭を持って要所で蛍光のおもちゃ(遊園地などで売っている棒状の光るやつです)を配っているだけ。天下のヒルトン・ホテルの断面図をもしも見ることができたら、この時はさしずめ「蟻の巣」のような感じだったでしょう。

この日は日米財団の関係者の方と、豪華レセプション&ディナー!のはずだったのですが、携帯も公衆電話もほとんど通じず、ホテルのレストランも営業停止のため、誰も口惜しくて口には出さないけれど、自動キャンセルに。食糧確保のため真っ暗な街に手分けして繰り出しましたが、レストランもコンビニも、システムがダウンしているのと、おそらく暴動を恐れて、ほとんどクローズ状態。蝋燭を灯して営業を続けている、コリアン系の一家が経営する良心的な小さなデリをようやく発見して、果物や水を買って漁り、何とか一夜の飢えを回避。カームサハムニダ! 真っ暗なニューヨークの5



①商売上手なお土産屋の記念Tシャツ

番・6番アベニュー、なんてそうは見られない光景を、(あまり余裕は無かったけれど横目で)予定外の見学となりました。

ただの箱と化したエレベーターのホール前(動いてないので誰も通らないし邪魔にならないのです)で、一同で輪になってアジア式の宴会を開祝。こんな状況でもにわかに楽しく盛り上がっているように見えたのか、通りがかりの西洋人の方から

「いい雰囲気だね。ところで氷があったら分けてくれないか？」

と声がかかる。氷なんて、この日はダイヤモンドですね、はい。あったとしてもそうはホイホイと譲れませんですね、それではグラム5万円からいってみようか、ですね、はい。

胃袋がとにもかくにも満たされ、さあ睡眠となって自室に戻ると、なんと小生の部屋には先に西洋人のおっちゃんが二人寝ているではありませんか。おたく様、部屋の間違いでは、鍵を拝見、と尋ねてみると、ちゃんとキー番号は合っている。あれあれ、と思って立ち尽くしていると、15人のメンバーのうち何と半分くらいが同じ目に遭っている。マニュアルで作業が進められていたために、ダブル・チェックインが随所で発生しているらしく、一部ではかなり激しいやりとりもあった様子。交渉役を自らもう一度買って出たエライ先生がもう一度長~い列を並んで下さり、またしばしフロントで言い合い。小生はもうくたびれて、空港で荷物が捕まえられた先生のお部屋にお邪魔し、床で毛布に包まって眠ることにしました。新しい部屋をあつらえ直してもらった方は、それでは17階ごあん

ない、と言われて、その場で「フリーズ」したそうです。

翌朝未明に電気が回復しましたが、シャワーはずっと冷水のまま。国連ビル、エンパイア・ステート・ビル、自由の女神像、各種博物館などの見学予定地はいずれもシステム・ダウンや保守点検のため閉館。NYっ子の足である地下鉄さえ、本格的な復旧には3日間かかりました。替わりの無料のバス・サービスも大混雑で、旅行の日程は大幅に影響を受けましたが、9・11事件のグラウンド・ゼロなどの屋外の見学は何とか予定通り実施できました。かつての大停電のときは暴動が発生するなど大パニックだったようですが、一昨年の大事件のために人々が非常時に「慣れて」いたためか、街は比較的穏やかで(現地報道によると小規模な暴力沙汰はあった様)、この停電が誰かの攻撃のせいでは、などとはほとんど考えないで過ごしました。自主的に困った人々に食べ物を差し入れる人も見かけたくらいです。この間、地の利のわからぬ私たちを、現地在住の卒業生の内坂さん(比較文化の個人リサーチで、夏休みに台湾の先住民の村に乗り込んで現地取材を行ったという、もはや伝説上の人物でもあります)が、あれこれと献身的にサポートして下さいました。

それから、社会見学として考えると、これは逆に千載一遇の機会だったという点は、文明の看板が取り外された、珍しいアメリカの姿を見ることができた、ということです(インド出身のダッタ先生のご親戚の方は、ニューヨーク大停電の報を聞いて「やっとアメリカもインドに近づいてきたね」とのご感想を述べられたとか...)。これほどに電気に頼った社会はいかに脆弱であるか、ということに切に思いました。例えばスーパーやコンビニなどでは、オンラインで商品情報を管



④信号が消えたマンハッタン)

理しながら販売しているために、目の前に食べ物がありながら、それをまさに必要としている人が、この非常時には買うことができないのです。こういった状況では、小生の大好きな、離島のおばちゃん商店の方が「コンビニエント」なのです! いざというときに人間の手で動かすことができなくなっている世界一の大都市のことを話すと、後日のホームステイ先のアメリカ人のファミリーは「新しい発電所を作ろう、という話が出ると、もう誰も反対できなくなってしまっているんだ。」と、そういう世の中の行く末を危惧しておられました。

資源がないのに、世界一高価で高品質の電気を買いながら、365日が不夜城の日本の生活。片や、国民の1割も電気を使える人のない、数多くの貧しい国々での暮らし。地球全体で考えると、やはり電気は大変なぜいたく品!

「相部屋民宿・ヒルトン」の床で、することもなく時差に眠りこけながら、あちこちに思いが巡りました。

さて、成田空港で出会った、卒業生の岡崎君、藤本君、中村君たち。その後、実はこんな目に遭ってしまったのですが、ソウルでのバンド演奏は成功しましたか? 音楽でもやっぱり「アンブラグド」のサウンドの方が、僕はオススメです。



③何とか確保した食糧と水

## NYダンス修行中に大停電

杉原末里子

高等部2年



私は8月10日から30日までの3週間、語学の勉強も兼ねて、NYへダンスを学びに行ってきた。

大阪からデトロイトでの乗り換えも含めて14時間、降り立ったのはNY ラガーディア空港。箕面とは比べ物にならない程落ち着きのない所だけれど、国や人種、年齢に関係なく夢を追い求め、世界中から人々が集まるパワフルな雰囲気を感じたくてやってきたのが1年前。大好きなダンスや歌がそこら中にあふれ、私にとってこの世で一番幸せな仕事だと思うミュージカル俳優が鎬を削る、ショービジネスの本場中の本場です。そして私は今年もこの環境でダンスや歌を学びたくてやってきました。去年の1ヶ月の滞在経験を生かすため、手続きは今回全て自分で行い無駄を省いたし、今年は最初の5日間は観光に来たお父さんも一緒だったので心強く、慣れるのもきっと去年より早いので、より充実した3週間になる事を確信していました。

明るく11日から2週間の予定で、私は語学学校入学を申し込んでいました。「NYに行くんだから、語学学校なんて行かなくていいやん」と思う人も居ると思います。私もせっかくのNYライフを英語の勉強!で終わらせたくはありません。が、日常生活で使う英語なんてささいなもので、それに加えNYは観光も盛んな場所、喋れなくても身ぶり手ぶりで何とでもなってしまう。特に私は海外で長い間生活した経験がなく、家族間で英会話が成り立つ事は万が一でも有り得ない家庭に育ったので、毎年2ヶ月という長い夏休みは嬉しいのも半分、英語の本を読んだりニュースを聞いてみたり、いろいろ

努力しておかないと、夏休み明けにネイティブの先生を目の前にして、ドキドキのガタガタになってしまうのなんて実に容易な事です。それを防ぐため、むりやりにでも自分を、英語を学ばせる環境におきたく今年も語学学校に入りました。

SIS・OISで英語圏の現地校に通った事のある人は大変多いと思いますが、語学学校に通った事のある人はそれ程多くないと思うので紹介します。

初日はプレースメントテストや面接がありました。私と違い、厳しいアメリカの学生ビザを取得してこれから何年もかけて英語を学ぶ、という人も居るので皆とても真剣でした。翌日から私が入ったクラスには日本、韓国、イタリア、フランス、スペイン、ポーランドから来た人達が居て、10人前後のクラスでした。ほとんど皆大人の人ばかりで初めお互いびっくりしましたが、すぐに仲良くなれました。クラスではspeakingを中心にreading, listening, writing, そしてgroup workという様に、私がSISで学ぶ英語の授業とほぼ変わらない物が受けられます。しかし私がひとつ手こずったのは、先生以外、言っている事が聞き取れないと言う事です。笑)私はSISに入学して英語を学び始めて以来、もちろん発音の仕方も学びました。LとRの違い、thの発音の仕方など、またそれを教えてくださった先生方を含め、テレビや英語以外の科目の先生や友達が話す、私が日常耳にしていた英語はとてもきれいな発音だったので。私はこれが当たり前だと思いついてしまっていた事に気付きました。そうです、学校内では忘れがちですが、いつもその外で、自分の学校の英語のレベルの高さや、いかに英語を学ぶにあたり恵まれた環境をもつ学校であるのか気付かされます。ただでさえNYはアメリカの中でも特に様々な国や州から来た人が英語を喋るので、なまりで聞き取れない事があるのに、まだ喋る事を習う側の語学学校の中での英語は、さらに、「これが英語か?」と本当に疑う程それぞれの国の言葉にアレンジされ、飛び交います。I understandは「アイ アン ドラスタンド」tomatoは「トメ イ タ」。一度37を「ソーリーセブン」と

言われて、何を急に謝っているんだろうこの人は。と思った事もありました。でもその分、余計真剣に耳を傾けているので授業にはとても集中でき、9時から1時までの語学学校は毎日あつという間に過ぎていきました。

午後は観光やショッピングに行く日もありましたが、2~3日に1回のペースでダンススクールへ通いました。私の通ったスクールはBROADWAY DANCE CENTERという所で、NYのダンススクールの中でも大御所的存在です。毎日JAZZ, BALLET, TAP, HIPHOP, POP, ROCK, LATIN, VOICE, THEATER DANCEなどのクラスが11のレベルに別れて毎日50~60クラス開かれます。先生によって同じレベルでも実際の難易度は全く違うので、興味のあるクラスをひたすら受けるしかありません。たまに「しまった、これちょっと違うわ。。。。」というのもありましたが、それもまた新しいジャンルとの出会いとして良い発見です。日本のスクールとは規模からして違い、人数も当然多いし、出来ないからと言って遠慮して後へ行く人なんていません。皆こぞって自分が一番鏡で見える場所に陣取ります。踊っているかどうかは別として、自分をアピールするパワーが皆すごいです。私はそれが必ずしも日本より良いとは思いませんが、しかしそのハングリー精神はやはり見習いたいですし、日本のスクールではそこまで見かけないものです。音楽やダンスの世界は国が違っても世界共通の物なので、レッスンの流れ自体は日本のスクールと変わりありません。しかしその中にもたまにある、全く新しいステップや手の降り、ささいなストレッチでさえ新しいものは自分のダンスの幅をまた一步満たしてくれそうですし、慣れから来るだらけを一気に真剣な自分へ覚ましてくれます。そして益々ダンスが好きになり、振りを考えるのも楽しくなります。最近の日本のダンススクールはHIPHOPやROCKが中心になっている所が多い様に思いますが、私はダンスの基本はやはりバレーやジャズにあると思うので、いろんなジャンルを踊りたいけれど基礎は常に忘れず習っていたい派の私にとってJAZZやBALLETが充実していたこのスクールはぴったりでし

た。

そんな生活にも慣れてきた4日目の8月14日、木曜日の午後。私とお父さんはSOHOというショッピング街でショッピングをしていました。するとお店の中の電気が急についたり消えたりし始め、遂にはブチッ・・・店の中が外から入る日の光りだけになりました。修理するまで外で待つ事になった私達は、お店の前のコーナーの信号が停電しているのに気づき、「あー、じゃあここのブレーカーがおちたんや」と話していました。そろそろ疲れてもいたので、又来る事にして今日はもう帰ろう、と駅まで歩きだすと、歩いても歩いても信号が消えています。「あー結構大きな停電なんやー」と思いつつ、ホテルに帰れば大丈夫。と簡単に考えていました。今思えば大きいどころの大きさではなかったのですが、これがカナダからアメリカ東部を巻き込んだBLACKOUTの始まりでした。駅に着いて地下に入ろうとすると、中から上がってきた人が「真っ暗で地下鉄動いてないわ」と教えてくれました。その頃にはもう周りのお店はお客さんを全て外へ出し、カフェやレストランのお客さんは真っ暗な中で食事していました。皆そろそろ大きな出来事だと言うのを気づきだし、家へ帰ろうとしだします。皆が皆タクシーを拾いたがるのでタクシーは捕まらず、バスも今まで見た事のない程の人が列を作っています。私とお父さんは歩いた方が早いと見て、ホテルまでの長い道のりを歩く事にしました。途中、携帯で知り合いに連絡を取ろうとしましたが、皆がかけるので回線がパンクして携帯は使えず、公衆電話には人が群がっていました。NYは何と言ってもSeptember 11thのテロを経験しているので、時間が立って人と車がごったがえすに連れ、皆何かテロ関係の事件ではないかと、とても不安になり混乱しました。私はその時、まだこの大停電の規模の大きさを知らなかったのですが、ホテルまで歩きさえすれば、と2時間近く歩いて頑張ったのですが、ホテルについても当然道路の信号は消えているし、周りの店は暗いままでした。

電気というものは、人間の生活にとっても深く関係しているもので、エレ

ベーターが使えなくて9階まで階段でのぼってとても暑いから冷たい水を...、と思っても冷蔵庫の電気が切れていて水はぬるくなっているし、アイスはどろどろになってるし、エアコンは使えないし、夜には本を読む明りすらありません。私達はその夜ブロードウェイの美女と野獣を見に行くはずだったのですがそれどころではなく、タイムズスクエアのきらびやかな看板達も一つ残らず消えていました。一番ひどい時には、電気、ガス、水道すべてがストップし、もう寝るしかない状況に追いやられました。その夜は家までたどりつけず野宿した人も多かった様で、まだ寝る場所があって幸せだったと思います。また、灯りを保つキャンドルの火災で、不幸にも亡くなった人が何人も居たそうです。私は夜にホテルの電話からやっと知り合いに連絡を取る事ができ、その時初めてこの大停電の規模を知りました。電気がないとテレビも見れないしラジオも聞けないので、現場に居ながらにして何が起きているのか、情報が全く入らなかったのです。その夜は火災現場へ向かう消防車のサイレンと、暴動行為を防止するために厳戒体制のしかれた警察のパトカーが夜中走り回っていました。

全てが回復したのは次の日の夜でした。また寝るしかなかったので早く就寝したところ、パッと電気がついたので目が覚め、続いてテレビから音と映像が流れだし、とても嬉しかったです。さっそくエアコンをガンガンにし、キッチンのコンロから火が出てきたのを確認すると嬉しくお湯を湧かしてお茶を飲みました。水風呂に入っていたので、お風呂にも入り直し、改めてこの生活の便利さに感謝感激し、電気、ガス、水道の3つのライフラインがないと人間がいかに弱く、銃や刃物なんてなくても人はこれで簡単に死んでしまえるんだな、と感じました。

結局お父さんが乗るはずだった飛行機はBLACKOUTの影響で飛ばず、お父さんは2日遅れて日本へ帰りました。私はこの文章を書いている間もまだNYに居るので、今はもう何ごともなかったかの様にまた電気に頼り切った生活をしています。残り1週間程になりまし

たが、まだまだNYの人、言葉、芸術をいっぱい吸収して日本へ帰りたと思っています。

(2003年8月NYにて)

## Best Summer of My Life

仲谷 環

高等部2年



私はこの夏、初めてアメリカ本土へ3週間、とても広いUCLA大学へSummer Discoveryというプログラムで短期留学に行きました。両親は最初私がアメリカへ行くのに猛反対で、説得するのに時間がかかりましたが、許可が出た時はすごく嬉しくて、いち早く両親の気が変わらないうちに手続きをおこないました。その日から、アメリカに行くまでの日々はとても待ち遠しかったです。

アメリカに発つ前の日も待ち遠しく、嬉しすぎて眠れませんでした。約10時間乗っていた飛行機から降りた私は、アメリカにいました。私の夢は親の助けがあり実現したのです。私は午後UCLAについたため、午前中についていた多くの人たちはもう友達が出来ていました。それに、寮の部屋に入ってみるとルームメートのかばんだけが置いてあったのです。そこで、私は初めて「ここで本当に3週間も暮らせるのかな」と不安になってきたのを覚えています。そして、寝る間に初めて顔合わせをしたルームメートはNew Yorkからきた17歳のエリザベス(リズ)でした。

午前中はディベートの授業、午後はTOFELのPrep Courseを取りました。ディベートのクラスでは国際人が私一人しかいなく、あとはみんなアメリカ人でした。それは、前に通っていた学校み

たいだったので、懐かしく、また新鮮な感じがしました先生は喋るのが本当に早くNote takingどころではなかったです。二日目からみんなでディスカッションをしました。その内容は、『アメリカでゲイだけの大学を作るべきか』何も発言しなかった私にクラスメイトは私に意見を言って欲しいと言いました。でも、静かな環境で勉強する習慣に慣れてしまった私は、自分には意見がないことに気付いたのです。

3週間の間に正式なディベートを何回もおこないました。トピックは『アメリカの政府は同性愛者の結婚を正式に認めるべきか』、『アメリカで死刑を廃止するべきか』、『Resolved: that the US Federal Government should establish a policy to decrease use of Fossil Fuel』です。同じトピックで立場を変えてやりました。私は後から先生に「アメリカだけではなくもっと国際的なトピックをすればよかったわ、ごめんなさい」と言われましたが、みんな熱心に真剣に自分の国のことについて話し合い、私もその中で色々文化の違いにじかに触れる事が出来たので、よかったです。

そのディベートのクラスで知り合ったLisaとはとても仲良くなり、カフェでランチを一緒に食べたり、部屋でおしゃべりしたり、最後の方では町にショッピングへ出かけディナーもとったり、とても楽しい日々を過ごしました。3週間共に暮らした仲間と離れるのはつらかったですが、今では世界中に友達がいって、私の視野も広がりました。そして、なにより積極的にやりたい事は行動に起こさないと世界の流れについていけないと実感しました。なので、日本に帰ってきてさっそくボランティアクラブをはじめたいと思います。この様な生まれて初めてのすばらしい体験が出来たのも、行かせてくれたお父さん、お母さんのお陰です。ありがとうございました！

## 言葉の壁を乗り越える方法

南川朱生  
高等部2年



飛行機が徐々に地上に近付いて行く。窓から見えるロサンゼルス街の街並みは、まるで巨大なミニチュア模型のようである。車やビルの輪郭がはっきりするにつれて、「アメリカに来たんだ」という嬉しさと不安の入り混じった気持ちでいっぱいになった。

私は夏休の間、UCLA大学のsummer discoveryという短期留学プログラムに参加し、たくさんの貴重な体験をしていた。その間体験したことの一部を紹介させて頂きたい。

このプログラムの一日のスケジュールは、午前授業(9:00~11:00)と午後授業(13:00~14:30)、そして放課後のactivity(マリブビーチ、Getty museum等、アメリカの名所を観光)の3つで構成されている。私はESL(英語を母国語としない人のための英会話クラス)とファッションデザインクラスを選択した。授業では様々な国の文化や価値観を目と耳で直接感じる事が出来た。また、留学中はUCLA大学の敷地内にある学生寮に宿泊した。私のルームメイトはBonnieというイギリスから来た17才の女の子だった。年が近いとやはり話題も共通。「今日の授業どうだった?」「アウトレットでTシャツ3枚も買っちゃった!」「プリント?最近太ったと思わない?」「あのスタッフ格好いいよね!」etc....私の片言で拙い英語と、Bonnieのわざとゆっくり喋ってくれた(でも流暢な)英語のキャッチボールは、私の英語力を毎日少しずつではあるけれども確実に上達させてくれた。ルームメイトに恵まれたということもあり、最初の1週間は順調であった。

しかし二週目が始まったある日のこ

と、その後の私を大きく変える出来事が起こった。私は街でアイスクリームを食べようと、友達と小さなアイスクリームショップへ入った。「バニラアイスをコーンで。チョコチップをつけて!」ところが、私の発音が悪かったのか、文法が間違っていたのか、単に声が小さかっただけなのか、店員は顔をしかめて「what?」と聞いてきた。私はもう一度声を大にして言い直しを試みたが、結局注文は伝わらず、隣にいたおじさんが「バニラアイスをコーンで、だってよ」と店員に言った事で、ようやくアイスクリームを買うことが出来た。だが、手渡されたアイスクリームにチョコチップは付いていなかった。「UCLAの校舎を一步でると、私の英語は通用しない」この事実を知り、私は大きなショックを受けた。その後Bonnieからの励ましを受けたにも関わらず、わたしはしばらく立ち直る事が出来ずに、自分から人に話しかけることが全く出来なくなってしまった。

ところがある日皆でテーマパークに言った時のことだった。暑さでバテてしまった私は、友達がジェットコースターに乗っている間、一人でパーク内のジャズライブを聴いていた。ジャズライブが一旦休憩を挟んだので、思いきって音響係りのおじいさんに声をかけてみた。「次の演奏は何時からですか?」おじいさんは笑顔で「15分後だよ」と答えてくれた。「日本から来たのか?」「はい」聞くとおじいさんは以前日本人を自分の家にホームステイさせていたとのこと。おじいさんの英語はとても聞き取りやすかった。私は自分の使える構文と、音楽の知識を使うだけ使って、おじいさんとの会話を楽しんだ。おじいさんがわざとゆっくり話してくれていたのは一目(一耳?)瞭然であった。「今彼らが演奏している曲は本当はボサノヴァだけれど、彼らが自分達でジャズアレンジしたんだってさ。」その時流れてたのは、ルイス・ボンファの「黒いオルフェ」だった。「黒いオルフェ」は私にとって大切な一曲となった。

「一生懸命伝えようとする意欲、そして自分から人に関わろうとする積極性、この二つが言葉の壁を乗り越える

最短の方法だ」これが私の留学期間に学んだ最も重要なことの一つである。

\*最後に、このプログラムを紹介してくれて、留学中も沢山お世話になった大竹さん、留学手続きや書類作成を手伝って下さった秘書の小野寺さん、授業選択のアドバイスを下さった栗原先生、Bonnieを始め私を支えてくれた友人達、そして留学に行かせてくれた父母にこの場を借りてお礼申し上げます。

## アメリカのゴルフ

李 利奈

高等部1年



私は今年の夏休み、7月28日～8月16日までの3週間、アメリカのロサンゼルスにあるUCLA(University of California Los Angeles)のSummer Discoveryというサマープログラムに参加しました。前々からアメリカに行って自分の語学をちゃんと試してみたかったし、アメリカという国に対しても興味があったのでこのプログラムに参加することを決めました。そしてまた今回は友達で同じ学年の岩村春奈さんと一緒にUCLAに行ってきました。

出発日が近づいてもあまりロスへ旅立つという実感がなかったのですが、行く前日となると楽しみと緊張が入れ混じった気持ちでした。初めてのアメリカだし3週間ちゃんと向こうでやっていけるのか...と。しかしまだロスまでは春奈さんと一緒に行ったのでお互いに心強かったです。そして、ロスの空港に着きスタッフの人に連れられて集合場所で待っているとどンドン生徒が集まってきて、私は現地の子ばかりなのに結構驚きました。反対に思ってたほどアジアの高校生はすごく少な

くこのプログラム自体が現地の(アメリカの)高校生のためだったので、この先どうなるんだろ～っていう不安が少しありました。私はもっと世界中から生徒が集まってきているのかな、と思っていたからです。UCLAに向かうバスの中でこれからどうしよ～。という不安があったのを今でも思い出します。しかし、それから4日後には私の不安や緊張はすべてなくなって、ここで(Los Angeles)もう1ヶ月ぐらい暮らしている気分になっていました。

向こうではSummer Discoveryの生徒はHedrick Hallという寮で暮らし、月曜日から木曜日までは自分の選んだクラスを受け週末はスタッフ等と全員でいろんな場所に行きました。私は午前中はESLを取って、午後は週に2日だけIntensive golfというゴルフクラスを取っていました。そのゴルフクラスでは素晴らしい先生との出会いもありすごくそのクラスは楽しかったし、アメリカでコースをまわれるなんてすごく感激でした。なんとそのクラスの先生は2人なんです、そのうちの一人がサキさんという、ロスで生まれ育った日系2世だったのです。そのクラスでは生徒は私以外みんなnativeで英語だけの環境で、初日のクラスなんてほんと不安いっぱいでした、サキさんに会うまでは...。それからといい、サキさんは私にたくさんコーチしてくれたりちゃんとスイングを教えてくれたりして、クラスを重ねるうちに私も良いショットができるようになりました。私はまだゴルフをやってもなくて全然下手だけど、わまりのみんなはとても上手いので少し足を引っ張ってないかな...?とと思ってたけれど、向こうの友達は全然そんなことも気にせず反対にやさしかったし、私も気軽にしゃべりながら毎回のプレーを楽しみました。このクラスで得たものは私の中でとっても大きいものだ、今ちゃんと感じるし熱心に楽しくゴルフを教えてくれた先生達、また色んな意味を含めた「アメリカのゴルフ」っていうのも肌で体験しました。また日本人とアメリカ人のゴルフに対する姿勢の違いも新しい発見でした。これから生きていくうちにあんまりアメリカのゴルフ

場に行けるのもじゃないし、3週間という期間でいろんな所でプレーできたので本当に貴重な体験だったと思います。実際、他のクラスだといくつかには日本人がいて、やっぱり日本語を話してしまうけれど、私のこのゴルフクラスでは英語だけの環境だったのでその部分もとてもプラスになったと思うんです!

寮では2～3人部屋で私は2人部屋でした。初め、私はRoommateと普通に過ごしていたけれど、だんだんお互いの間に問題が起こって最後にはお互い違う部屋に移動する形になってしまいました。でも私にとってそれは全然大きな問題ではなく、他にたくさんいっぱい友達もできたし毎日私は楽しんでいました。ただ、私のルームメイトは少し色んな人のなかで問題を起こしたりして彼女にも原因があったんです。お互い典型的に”合わない”っていうのもあったけれど...。だから私は反対にそういう問題も経験できて良かった、などと思います。。私がその子とトラブルがあった時はたくさんの方が助けてくれました。特に春奈にはお互い今回は一緒に参加したこともあってこのトラブル以外でもお互いささえあったり2人やから少しは安心やったところもあって彼女がいなかったらもしかしたらこんな風に充実した毎日を向こうで送れてなかったかもしれません。春奈には感謝してるしお互い素晴らしい夏と一緒にアメリカで送れたので良かったなとホッとしました

日に日に過ごしているうちにたくさんスタッフのみんなや、友達と仲良くなりました。「英語を話せない」じゃ、なくて実際はまだまだ無理な部分はあっても「英語を話そう」って私は常にそう思ってたし一緒に行った春奈さんとも英語で話そうとお互い頑張りました。向こうではプログラムに参加してたけど、結構週末以外はのんびりして楽しんでたけど、本当に来た意味を忘れてはいけな、と私は感じていました。同じ言語の通じ合える楽な道へ行くか、頑張ってたnativeの人達に混じって話したりして過ごすか、3週間をどう過ごすかなって自分次第でここはなんでも決まるんだな、ってことも実感した。それほど自由やったし

アメリカの国の大きさも感じました。

あとこのプログラムに参加して思ったことは「人との出会い」です。本当にたくさんの新しい人に会い、そして色々な大切なことを彼らから学びました。まずこの3週間はいままで生きて、大げさかもしれないけど一番英語をしゃべった日々でもあるし、またもっとこの機会に英語を話すことが好きになりました。いっぱい楽しい思い出が出来たいろいろな出会いがあってそれら一つ一つが私自身を成長させてくれたものだと思うんです。

UCLAは本当に環境が良くて、ロスも湿気がなくてカラッととても良い気候です。寮の真横にすぐPoolがあるので暇があれば行って焼いたり、泳いだりしてのんびり過ごしていました。

週末はDisney Landや、Universal Studio、Beachにも行きました。その他にも本当にたくさんのイベントがありそれらを友達やたくさんの人と一緒にたのしんだので、良い思い出となりました。

初日の私は少し不安だったけど、人生の中で忘れられない3週間を大切な仲間と過ごせてとても良かったし貴重な夏になりました。最後なんてもう大阪に帰りたくないほどでした。今、ほんとにあの3週間が私にとってプラスになってるし忘れられない3週間になると思います。

最後になったけど、このプログラムに参加するにあたって一緒に忙しい中お世話してくださった小野寺先生、どうもありがとうございました。また私をこうやってアメリカまで行かせてくれた親にも感謝の気持ちでいっぱいです。自分が行ける環境にいることに感謝して、これからも頑張っていきたいな、と思います。私をいつも支えてくれている周りの人々にもほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。みなさん本当にありがとうございました。

## たくさんの人に支えられて

岩村春奈  
高等部1年



私はこの夏休みを使ってSummer Discovery というサマーキャンプに参加し、UCLAで3週間を過ごしました。私がなぜこのキャンプに参加しようと思ったかという、9年生の時にAustraliaでhome stayを経験してから留学してみたいという願望がありました。でもSISで一年間皆と生活出来ないというのが嫌でずっと悩んでいました。そこで先輩や先生に相談して夏休みを使って英語を勉強しようと思ったのがきっかけでした。

このキャンプはhome stayとは違って寮に泊まり、洗濯など自分で生活を管理しないとイケませんでした。もちろん日本人だけでなく世界各国の高校生が参加しているので英語が話せるというのは当たり前という環境でした。でもそれが逆に自分にとって良かったと思います。でもそのこのstuffの人達はとても優しく親切でいつも私達を助けてくれました。

私は一週間目に体をこわしてしまい熱を出しました。日本ではあまり風邪をひかない私なのでどの薬を飲んだら良いのかとかさごくパニックになりました。その時に一緒に行っていた利奈やあけおやみさこに助けられました。私のRoommateもすごくいい子で、単語ばかり並べて話す私の英語をいつも懸命に聞いてくれ、とても優しく気の合う子でした。その子も心配してくれてとても嬉しいかぎりでした。その時の事は本当に感謝しています。2週間目・3週間目はもう生活や授業にも慣れ、英語も自然に話せるようになり毎日充実した日々を過ごす事が出来ました。

このキャンプを通して分かった事

は、自分で自分の体の管理をするのがどれだけ大切かということと、そしていつもたくさんの周りの人に支えられながら生きていたんだということに気付きました。私にはこんな素敵な友達がいるんだ、大事にしようと思いました。もちろん英語も上達したと自分でも思うし、やっぱり自分で努力しないと何も変わらない何にもならないというのが分かりました。このキャンプでいろいろな経験が出来て良かったと思います。最後にこのキャンプに行かせてくれた親、そして先生方、それから私を支えてくれた友達に感謝します。有難うございました！！

## カナダでの出来事

福田杏奈  
高等部1年



私はカナダと言う国の名前は知っていましたが、その地域に在るトロントがどんな所でどんな物があるのか全然知らずに行ってきました。私は前までアメリカ等の外国に関していい印象を抱いてなかったのですが、カナダ滞在の間のホームステイを通してそれまでの外国観は大きく変わりました。最初はSARSにかからないか心配でSARS対応マスク片手にカナダ空港に向かったのですが、マスクしている人が私以外誰も居なかったのです。迎えに来てくれたホームステイでお世話になるおばさんに理由を聞いてみると「SARS? 何ですか? それ?」と聞き返されて驚きました。後の話なんですが、学校で妹が先生にSARSの事に関して質問したんです。なぜ、みんなSARSを気にしないのか、と。先生が言うには、トロントに住んでいる人約半分はSARSを知らないらしいんです。って言うか知ってる人

もSARSを気にしてないらしいんです。ただ他の国がSARS、SARSと慌てているだけだとこの先生は言いきました。そしてカナダはマイペースな国でもあるとも言いきました。

トロントは本当に清潔にされてあって空も綺麗で、そう言えばカナダが夜本格的に暗くなるのは9時半から10時の間なんです。7時、8時なんか明るい明るい、その明るさは日本の正午に匹敵します。九時でやっと日本の5時6時です。はっきりいって寝れません。後食べ物、物価、文化などやっぱり外国だなあと感心してしまいました。カナダは意外にアジアの人が多かったのです。日本人は少ないのですが、韓国、中国の人が沢山居ました。私が短期間通っていたカナダの学校も、大体が韓国からの留学生で占められていました。中にはメキシコからの留学生も居ました。その学校は、とても個性的な学校で(もちろん私服)色々な先生がいました。私のクラスにいた先生は嫌われているようで好かれている先生です。って言うか生徒相手に本気で喧嘩するような人です。クラスで(私が来る前)HATEMIKECLUBを作ったらしいんですがマイク嫌い嫌いと言いつつもマイクが来ない日はマイクどうした!?マイクどこ行った!?とみんなで寂しがっていました。(私も含む)皆とても気さくで面白くて安心しました。

この場所で本当に面白かったのは皆で遊園地に行った時の事です。遊園地なんか日本で行けば面白い話があるのかよと思う方もいらっしゃると思いますがまあ聞いてください。カナダの遊園地は値段が高い、だから面白く遊ぼうと私のクラスの男子が言い出したのが始まりです。帰る間に水流ジェットコースターに3人で乗りました。そのうちの一人は遊園地に行くと言った男子ですが、もうすぐスタートするのにシートベルトを締めないんです。彼が締めなければ私も締められません(シートベルトは3人で一つ)。なぜ締めないのかと焦って聞くとただほくそえんでました。ジェットコースターが高いところに行き着いた瞬間、その男子は飛び降りたんです。笑いながら、ドボンと水しぶきを上げたかと

## 海外サマープログラム「TIP(デューク大学主催中高生のための才能開発プログラム)」について

TIPとは、アメリカ東部にあるデューク大学主催のTalent Identification Programのことで、頭文字をとって「TIP」と呼ばれています。主にアメリカの中・高生を対象にした「才能開発プログラム」ですが、本校は日本では珍しく正式に参加が認められています。

学問への興味と関心を高め、参加者同士の交流を深めることを目的とした夏期講座で、大学施設内の寮に宿泊し、大学レベルの専門的な科目を1つを選択して3週間集中的に学びます。

そのためには、ある程度の英語力が要求されますので、参加資格を得るために認定試験(SAT)を受ける必要があります。参加対象は、試験を受ける時点で中学1年生～高校1年生に在籍中のSIS/OISの生徒です。

来夏TIPに参加を希望する人は、12月6日(土)のSAT試験を受けなければなりません。SAT受験が初めてという生徒は、10月18日(土)のPSAT(SATの予備試験)を受けておくと、とてもよい練習になると思います。

2004年のTIPに関心のある人は、11月末までにカウンセリングセンターにお問い合わせください。個別に説明し、参考資料をお渡しいたします。

尚、TIP以外のサマープログラムにつきましても、個別に対応いたしますので、電話あるいは直接オフィスで予約をお取り下さい。資料閲覧もできます。多くの海外サマープログラムの申し込みは2-5月頃に締め切りますので、お早めのご相談をお勧めします。

カウンセリングセンター  
栗原真弓、小野寺文江

思うともう一人も飛び込んだんです。可愛らしい女の子でした。その方々言うんですよ。「飛べっ!」「ごめんなさい。無理です。」そう思いながらやっと終点地に着いてその2人を迎えるに行ったら、案の定管理人に怒られていました。そしたら一緒に乗っていた女の子が「彼は病院から帰ってきたばかりなんです」と飛び込んだ男子を指差して言いました。私は横で絶対その言い訳は通用しないと思いながらハラハラしていました。しかし、予想外な事になって言うか奇跡とっていいような事が起こりました。管理人全員納得して私たちに謝ってきたんです。確か、こういつていたと思います。「君たち悪かった。病院から帰ってきた友達を励まそうとしたんだね。」見

たいな事を言った後、私たちを許してくれました。その間笑うのを耐えるのに必死でした。遊園地の水流ジェットコースターから飛び降りてその水の中で泳いでいる友人を見たのはスリル満点。そして後始末の計画を建てたのも面白かったですよ。お別れするとき本気でカナダに住もうかなと計画を立てたりしました。

カナダでの教訓:世の中良い人ばかりじゃないが悪い人ばかりでもない。帰りの空港(デトロイトから日本)でお土産を誰かにひったくられました。みんな空港で寝ないほうが良いですよ。

# バイリンガリズム通信 10月号

難波和彦

英語科

英語と日本語のチャンポンは悪いことか？コードスイッチングについて-1

OIS/SISというバイリンガル環境で生活していると、次のような言葉を聞くことがあります "っていうかthis is justあくまでもmy勝手なopinionやねんけどwhat do you think of that?それでもいいと思う?" (これはSIS10年生が、どんなふうに二つの言葉を混ぜて使っているか、自分で思い出してくれた例) ひとりの人が、ひとつの発言のなかで、日本語と英語の二つの言葉を"まぜて"使っているわけです。こういう言葉の使い方をコードスイッチング(Code-switching)と呼びます。コードスイッチングは、「英語と日本語のチャンポン」で、どちらの言葉の発達にとっても悪影響だ、という考え方があります。しかし、実際にそうなのでしょうか？

コードスイッチングの研究では、どんな場面でどんな話し相手に対して、何のためにするのか、という社会言語学的な視点からみる場合が、多くあります。例えば、話し相手ということに関して言うと、例えば、日本語と英語の両方が話せるバイリンガルがいるとすると、その人は、日本語しか話せない、あるいは英語しか話せない人 - モノリンガルの人と話すときは、相手に合わせて言葉を使い分けます。例えば、うちの家庭では、父親は必ず日本語で、母親はかならず英語で、子供に話しかけるようにしています。それで、次のようなコードスイッチングのパターンが、見られました。3歳のときにテレビの子供番組を見ていて、雲がふたつ現れたのを見て、母親に向かって、"Two clouds"といい、すぐに父親の方を向いて、"ふたつ"と言いました。また、次のようなパターンも記録に残っています。"Mama, I go乗るか?" これは、子供が同じく3歳のとき大好きな電車の写真を見ていて、うしろに母親がいると思って、"Mama I go on this train?" といおうとしたのですが、

英語の前半部分のgo のところで、振り返ってそこにいるのが、父親だと気がつき、「僕この電車のるか？」という日本語の後半部分だけを言ったのです。父親-日本語、母親-英語、という図式ができあがっているので、コードスイッチングは、話し相手によって、はっきりと、使い分けられています。SISの生徒でも、ネイティブの先生や、OISの生徒には英語で話しかけ、日本人の先生や友達には、日本語で話しかけるという使い分けをしていると思います。

しかし、お互いに相手がバイリンガルであるということがわかっている場合は、同じ会話相手と話している中でも、二つの言語間を頻繁にコードスイッチングをするのが見られます。例えば、うちの二人の子供の間の会話では、これがよく起こります。次の例は、オセロのしかたを兄が弟に教えているところです。

弟: Then I'm not doing this again.

兄: You can doがんばれる？

弟: No, because this is too hard.

兄: It's easy you want to do it here OK. So you want to be white or brown I mean.

弟: Hey it's 反対側、今の！

他のゲームをして遊んでいるときにも、次のような文を言っています。

弟: No, I want to do this 自分で!

このような例がバイリンガルの子供同士の間ではよく見られます。Grosjeanという学者は、バイリンガルの方は、相手がモノリンガルのときは、頭の中が一言語モードになっていて、一度に一つの言語しか使わないけれど、相手がバイリンガルの人のときは、頭の中が二言語モードになっていて、二つの言語を同時に使うと説明しています。例えば、日本語と英語のバイリンガルの場合、日本語しかはなさない人と会話をするときは、頭の中で「日本語」のスイッチがon「英語」のスイッチがoffになっていて、逆に英語

しか話さない人と会話をするときには、「英語」がon「日本語」がoffになっているわけです。相手もバイリンガルの場合は、「日本語」と「英語」の両方のスイッチが常にonになっています。(スイッチがon, off という表現を使いましたが、実際にはこの一言語モードと二言語モードの間は、はっきり区別できるものではなくて、段階的に変化していっていると考えられます。) "一言語/二言語モード"は、コードスイッチングを見るときに、まず考えなければいけない基本と言えます。どちらのモードにあるかによって、コードスイッチングのパターンなどが全くちがったものになってくるからです。

コードスイッチングの研究でよく見られるのが、「何のためにコードスイッチングをするのか」ということについてです。例えば、"Daddy 見た this one." (子供が2歳7ヶ月のときの例、電車の絵を見ながら、母親と会話をしている) という文を見てみると、この時点で、子供は「見た」という日本語はもう知っていて使えるけれど、"saw" という英語はまだ知りませんでした。そこで、知らない言葉のギャップを埋めるために、もう一つの言語に知っている単語がある場合はそれを借りてきたわけです。これは発達段階にある子供の例でしたが、次のようなものもあります。"That is so なつかしい" こちらは、すでに日本語も英語も完成しているSIS10年生の言葉です。彼女が"なつかしい"という言葉が英語でなんというか知らないというよりも、英語では"なつかしい"という意味にじっくりあうような表現がないので、そのギャップを埋めるために、日本語を借りてきているといえます。他にも例えば、他の人にきかれたくない話をするために、コードスイッチングをする場合、仲間意識を表現するためにコードスイッチングをする場合など、いろいろな場面が考えられます。

このようにコードスイッチングは、

## 生徒の安全保護に関して

大迫弘和

SIS校長

中高生の自宅に電話をかけ、他の生徒の名前・住所等を聞き出そうとするケースがあります。これまでは教育産業関係者を名乗ることが多かったようですが最近警察を名乗るケースがあったと府当局より連絡がありました。生徒の安全保護の観点から、そのような電話には一切対応しないよう、各ご家庭で十分ご注意ください。よろしく願いいたします。

話し相手、目的、場面など、様々な要因によって、起こるわけですが、実際のコードスイッチングされた文そのものは、どのような構造になっているのでしょうか？そこには、文法は存在せずに、二つの言語が「むちゃくちゃな」状態で、くっつけられているのでしょうか？（文法というのは、文のつくりかたということですそれとも、コードスイッチングのための文法が存在するのでしょうか？今回引用した例文にも、いろんなパターンが見られます。文の変わり目で、二つの言葉をスイッチするパターン(inter-sentential codeswitching)は、見た目にもわかりやすいのですが、一つの文の中でスイッチするパターン(intra-sentential codeswitching)の場合は、「混ぜこぜ」のような印象をうけます。しかし、近年の研究で、一つの文の中でのコードスイッチングについて、文法的な規則性が見出され、こういったコードスイッチングをするには、両方の言語で、ある程度のレベルまでに文法力を備えていないといけない、ということがわかってきました。)どのような法則が見出されたのかということについて、次回のこのコーナーで紹介をすることにします。

### 秋学期編入生紹介

入学センター

学年	姓 名	Last	First	在留国
7	村上 さくら	Murakami	Sakura	ドイツ(OISより)
7	亀井 潤	Kamei	Jun	フランス
7	中垣 りさ	Nakagaki	Risa	シンガポール
8	田宮 康裕	Tamiya	Yasuhiro	フィリピン
8	渡辺 圭	Watanabe	Kei	アメリカ
8	三戸部 麻衣	Mitobe	Mai	アメリカ
8	古岡 祐輝	Fukuoka	Yuki	中国
9	山崎 郁子	Yamazaki	Ikuko	アメリカ
10	三戸部 佑介	Mitobe	Yusuke	アメリカ
10	阪本 奈緒子	Sakamoto	Naoko	ケニア
10	高橋 俊幸	Takahashi	Toshiyuki	ドミニカ
11	木本 亜梨沙	Kimoto	Arisa	マレーシア
11	ウォーターハウス亜耶	Waterhouse	Aya	日本(OISより)
11	ウォーターハウス美希	Waterhouse	Miki	日本(OISより)
11	堀内 彩	Horiuchi	Aya	アメリカ
12	奥 亜紀子	Oku	Akiko	イギリス
12	檜村 洋	Naramura	Hiroshi	アメリカ

## 学年だよ！

中等部 1 年生

Respect for self, respect for others

Rodny Ray

7-3, English

One of the things 7th graders learn very quickly when they come to this school is that rather than a long list of rules, our school functions through the 5 Respects: Respect for

Self, Others, Learning, Environment and Leadership. Learning that list of five things takes only a few minutes; however, it can take students several years to learn how those 5 Respects apply to our daily lives and how they should guide our behavior.

For example, most students understand that Respect for Self involves things like avoiding alcohol, drugs, or other things that can harm our bodies, or getting enough sleep so that we are in good condition for school. However, this is only a very narrow view. Respect for Self also means to behave in a way that fits your sense of right and wrong. For example, if you bully somebody, and you know that's a wrong thing to do, it's hard for you to feel good about yourself. Likewise, if you put pressure on somebody to let you copy their homework, and then that person gets in trouble, you will naturally feel bad. In that case, you are not only failing to show Respect for Others, but you are also not showing Respect for Self, because you are not behaving in a way that you can be proud of. In other words, there is a special connection between Respect for Self and

Respect for Others, because a person who doesn't show Respect for Others is also not properly respecting himself or herself.

In fact, if we think about it carefully, we can see that all the other respects have a special connection with Respect for Self, because any time you don't pay attention in class (Learning), or throw trash in the hallway (Environment), or speak rudely to your homeroom teacher (Leadership), you're really hurting yourself. Maybe this is why Respect for Self is the first one in our list of 5 Respects.

I think everybody wants to feel like he or she is a good person. For us to have that feeling, of course it's important to receive approval and acceptance from our friends and family members, but maybe it's even more important that we get some approval and acceptance from ourselves, and to get that, we have to act in a way that fits our understanding of right and wrong. Since so many of our actions affect other people in one way or another, showing Respect for Others is actually one of the best ways to show Respect for Self.

中等部 2 年生  
運動会がんばろう  
相良宗孝

3組担任、保健体育科

中等部 2 年生は、この 9 月より 1 組に田宮康裕君、古岡祐輝君、2 組に渡辺圭君、3 組に三戸部麻衣さんを新たに編入生として迎え入れました。彼らが一日も早く学校になじめるように、声を掛けてあげたりして、協力してあげましょう。

今年の 8 年生は、去年のように何か

ら何まで受身で行うのではなく、すべてにおいて自分たちの力で協力して学校行事に取り組みという目標をたて、春から実践してきました。

春学期は、店係が悪戦苦闘しながらも、先生の力を出来るだけ借りずに、もちろん皆と協力して、学園祭の店を準備、運営しました。

さあ、秋学期です！今学期のピックイベントはと言えば？そう、運動会ですね。

今年の 8 年生の学年の色は緑と決まり、だんだんと雰囲気盛り上がってきました。今回は各クラスで 2 名の運動会委員を選出し、彼らのリードで運動会の応援等の企画、応援グッズのデザイン、作成などすべてが行われます。今年は去年成し遂げることが出来なかった総合優勝もかかっています。皆でお互いを盛り上げて、運動会が大成功に終わるようにがんばろう！

中等部 3 年生  
あいさつしよう  
中村亮介

3組担任、社会科

最近、校内で気になる事の一つに、あいさつの声あまり聞かれなくなった事があります。気のせいかもしれませんが、でも、以前はもっと皆の「おはようございます！」とか、授業の合間に廊下ですれちがっても、「こんにちは！」とかのあいさつの声が聞かれたように思います。

授業を受けたことのない先生や学年が違う友達、外からのお客様には、見向きもしない、朝の HR でもあいさつしても返事をしてくれる人は少ない。自分の親しい友達とだけ廊下を広く取りなが

## ピアノコンクール全国大会第3位

7月26、27日浜松アクトシティホールにて、第7回PIARAピアノコンクール全国大会が開かれ、中等部2年生林そよかさんが、シニアA(中学生)部門で第三位(スタインウェイ奨励賞)を受賞しました。このコンクールでは、全国8ヶ所で行われた地区大会を通過した小学生から大学、一般までの112名が参加し、課題曲を演奏しました。



ら歩いている、或いは階段の上がり間口やドアの出入り口に立ち止まり、人が通るのもお構いなしに座り込んだりしてしゃべっている。教室でもあいさつそっちのけでマンガを読んでいる。こちらが、あいさつしても会釈もしない。そんな人が多くなっているように感じます。

いつの頃からか、校内がコンビニの入り口か大きな駅のコンコースのようになってしまった感があります。なんか変な気持ちです。もちろん、素敵な笑顔であいさつしている人も校内には沢山います。

自分の容姿を棚に上げていっているのですが(もう、10年以上も夫婦をしている私の嫁さんも未だに私が考え事している顔は怒っているようで怖いのですが...)、きっと生徒の皆も私の容姿にビビってあいさつが出来ないのかもしれませんが...

「あいさつ」であった自分の体験を一つ。

大学を卒業してすぐの頃、私は横浜のある職場に就職しました。仕事の事は右も左も分からない頃、多くの先輩、上司は色々仕事の仕方を教えてくれました。しかし、その中に一人だけ非常に(私からしてみれば)無愛想な女の先輩がいました。言葉もきつかったです。私は当初、出来るだけその先輩に近づかないようにしていました。職場のスタッフの数はそんなに多くありませんでした。10名前後です。ですから、そんなに長い時間、その先輩を避けている訳にはいきませんでした。勿論、あいさつもそんなにしていませんでした。自分にとってその先輩がいるだけで職場の雰囲気重苦しく感じられるようになってきました。しかし、そんなことばかり言っていられないので、ある時思い切って自分から、出来るだけ積極的にあいさつをしたり、鬱陶しがられても話し掛けるようにしてみました。

それから暫くして、その先輩も色々話し掛けてくれるようになりました。自分が考えていた人とは違う側面がある人だということも分かりました。自分がその人を誤解していることも分かりました。

あいさつをすることによって、開けてくる人間関係もあるんだと言う事を

学びました。誤解している事もあるんだということも学びました。皆さんもぜひ、怖がらずに、鬱陶しがらずに、嫌がらずに「あいさつ」してみてください。きっと、何かが開けるかもしれせんよ。

高等部1年生  
盛りだくさんの秋  
新見真人

4組担任、理科

9月も3週目に入り、ようやく朝晩だけは過ごしやすくなってきました。昨夜は阪神タイガーズの優勝もやっと決まり、これで一安心。野球好きの娘(中等部3年生)がいる我が家でも赤飯を炊いてお祝いをしました。

今学期から、高等部1年生には阪本奈緒子さん(1組)、高橋俊幸くん(3組)、三戸部佑介くん(4組)の3名が新たに加わり、代わりに西田紗織さんと高原麻衣さん(1組)、深田充宏くん(2組)、三嶋淳平君(3組)、浅原杏咲さん(4組)の4名が海外への留学に旅立ちました。今学期、在籍71名(内留学4名)。留学したメンバーにとっては、それぞれの新しい国、都市、学校、環境での勉学や国際経験に実り多き1年となります。

ますよう、ここ箕面市から応援しています。SISにいたときと同様に勉学・スポーツ・音楽芸術活動・その他の校内校外での諸活動に精一杯努力してください。来秋、また大きく成長したあなたがたの元気な姿に再会できることを楽しみに待っています。新メンバーの皆さんは熱き我がSIS高等部1年生集団に早く溶け込んで、学園生活をみんなでエンジョイしてください。その一番の機会が10月4日に迫ったスポーツデーでしょう。すでに、学年統一Tシャツとねじり鉢巻作りが決定しました。学年応援団(団長:1組荒久田敏紘くん)とパフォーマンス集団も組織され、じきに全員での本格的な練習も始まることでしょう。黒組ファイト。ネバー・ネバー・ネバー・サレンダー。

さて、夏休みに入る直前に皆

さんに「春学期の反省 Review Your Spring Trimester」として春学期活動実績内容とその反省を文章に書いてもらいましたね。その中で秋学期への抱負を述べてくれた人も多くいました。また、「What are you going to do with your SUMMER...?」ということで夏休みの計画についても書いてもらいました。そして、今、私の手元には「What did you do this SUMMER?」と題したあなた方の文章があります。それによって、実に、一人一人、さまざまな体験を休暇中にしたことが良く伝わってきました。ぜひ、機会を設けて皆さんとその貴重な多くの経験を共にシェアできたら良いなあと考えています。

ところで、今学期からは個人個人あなたたち自身の進路について真剣に考え始めてもらいたいと思っています。まず、10月29日(水曜日、LHR)には進路情報室から生徒の皆さん対象に「進路に関する話」をする予定です。そして、皆さんの保護者の方々へは12月中旬の冬休み前に「進路説明会」を企画しています。さらに、冬学期(2月末頃)中には「進路適性検査」の実施も考えています。この検査の目的は、あなたの進路を考える上で何かの参考

## 新俳句入賞

高等部1年の小池洋平君が「第14回伊藤園お~いお茶新俳句大賞」に応募し、佳作特別賞を受賞しました。応募総数は127万7946句。厳正な審査により選ばれた佳作以上10000句の内、入賞作品(合計2000句)のひとつとして小池君の作品が以下のサイトで発表されています。入賞作品は「お~いお茶」のパッケージに順次掲載されるそうです。

他にもOISの小学生から2名の入賞者が出ています。(P.35参照)

小池洋平君の作品

叫ぶんだ 自分の殻を ぶち破れ

掲載サイト

<http://www.itoen.co.jp/new-haiku/contents/14kasatoku01.html>

(ヒント)になってほしいとの思いから行なうものです。

このほか、今学期と来学期にはLHR委員が中心となって、学年全員が気軽に参加でき楽しむことができる企画も立ててもらいたいと思います。乞う、ご期待！

高等部 2年生

On Forming Good Habits

Mary Pfeiffer

11-3, English

Before the summer holiday, you met with your HR teacher to discuss post-high school plans, and in many of those discussions you talked about your plans for the summer. Several of my homeroom students planned to make a habit of something during the two month respite, whether exercising, reading, movie watching, vocabulary study. My own goals included exercise (accomplished!) and reading Tolstoy's 1500-page epic War and Peace (unfortunately, I only got one-fourth of the way through). Both of these goals required that I adopt a daily habit, of reading an hour or two, and of jogging and lifting weights. Forming habits-at least those that improve, not ruin-requires mental strength. You have to either ignore or refute the voices in your head that tell you to keep doing what you always do. Yet, as we know, it's easier complacent.

You are in SIS to obtain a solid education, which is not something that is simply bestowed on you-it takes effort, habits of mind and body. Some of you have empty spaces in your new schedules. Form the habit of using this unscheduled time in a productive way. Do I have to tell you to form the habit of coming to school on time and being ready for class? Surprisingly, some of you still haven't. I also urge you to spend time each day being in touch with the world, watching the news, reading the newspaper. Think about the issues the world faces, and your place in the world. Form the habit of curiosity, of seeking answers to questions that you have. Some eleventh graders have told me they want to focus on language this year, and since many of you are bilingual, that means not

just maintaining what you have: You must spend time each day building your vocabulary in the languages you speak. Additionally, you are at an age when you must think about your future seriously, not just live in the present. Form the habit of looking forward; this is a key time for you to make further decisions about your future.

I would like you eleventh graders to improve your non-academic habits, too. Notice your behavior in halls and how others interpret your actions: Are you disrupting classes? Are you leaving papers and trash around? Are you speaking to others with respectful language? Form the habit of looking around you and noticing your effect on others and your environment. Form the habit of valuing relationships: If there are people around you who show their love and care, tell them how much you appreciate what they do for you. Is it your habit to listen and learn from others? Form the habit of being involved in the school, instead of letting a few students do the hard work: volunteer for committees, join a club and really do something in it, embrace Sports Day, contribute to grade-level and homeroom discussions.

Our school's five respects aim to instill important habits. These five goals are essentially life goals, so make a habit of seeing the five respects as goals for when you are at SIS and not at SIS. Form the habit of following through with your promises and duties. If you tell your friends, teachers, and parents that you will do something, then do it. Make a habit of fulfilling promises that you make to others and to yourself. The Greek philosopher Aristotle said that through habit comes excellence. Success does not magically appear; rather, it is through daily doing that you will find fulfillment.

Finally, we want to welcome four new students to the class. Arisa Kimoto returned to Japan from Malaysia and Aya Horiuchi from the United States. Miki Waterhouse and Aya Waterhouse arrive from nearby OIS. We also want to welcome back two students from a year overseas: Chiaki Fujita (in Vermont, USA) and Yuki

Hakuto (Texas, USA). I hope that all six of you have a fulfilling experience at SIS.

高等部 3年生

健闘を祈ります

難波和彦

3組担任、英語科

12年生は1組に榎村洋くん、4組に奥亜希子さんの二人の編入生を迎え、留学をしていた4組鳴澤智行くん4組崎田智子さんも帰ってきて、よりいっそうにぎやかになりました。

この記事を書いている段階では、最後の運動会に向けて、学年の雰囲気をもりあげていくために、学年スポーツデイ委員が編成され、取り組みが始まったところです。このインターカルチャアが発行されるころは、スポーツデイの結果も出ていることだと思います。学年がまとまって参加する全校的な「行事」はこれが最後なので、進路のことで多忙なときではありますが、ひとりでも多くの生徒が、全力を出し切ってくれたらいいなあと思います。

受験という大きな山が目前に迫ってきましたが、12年生のみんなは、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか？長丁場なので、プレッシャーを感じたり、不安に思うこともいろいろあると思います。今の時期にいろいろ将来のことなどを友達と話し合うことは、大切なことです。僕自身、受験の時期にいろいろ将来のことを話したり、一緒に勉強した友達は、今でもいい友達です。また単調になりがちな受験勉強を工夫して楽しむようにしましょう。例えば、なにか覚えたい英単語や、公式などがあれば、それを風呂の中で覚えるとか(風呂の壁はぬれているので、紙がはりついて落ちません)...

みなさんの健闘を祈っています。

# 話題 情報 連絡

## 千里国際学園図書館によるこそ

青山比呂乃  
図書館

### \* 図書館紹介

編入生の皆さん、その保護者の皆さん、千里国際学園図書館によるこそ。

図書館は、学校の玄関を入ったすぐ目の前にあります。現在蔵書は日本語約28,500冊、英語約25,500冊、合わせて約5万4千冊です。ビデオ・CD・CDROMなどのニューメディア資料は、1090点、新聞は日刊紙が日4タイトル、英3タイトル、他に週刊紙などが5タイトル、雑誌も日英その他の言語を合わせて、130種くらいあります。厳しい残暑も過ぎ、読書の秋です。新しく入った人も、前からいる人も、たくさん使ってくださいね。

また、図書館の2階には、マルチメディアフロアとして、ビデオなどの視聴ができるブース10台とマルチメディアコンピュータ室、コンピュータ科オフィスがあります。英検・TOEFLなどの問題集や、いわゆる赤本などの高校生用進路資料も置いてあり、貸出もしています。個人が静かに勉強できるデスクも4台ほど設置しています。このフロアの開館時間は、8時半から4時までです。

図書館は学校の授業のある日はいつも、朝の8時から夕方4時30分までずっと開館していますので、保護者の方も機会がありましたらいつでも訪問してください。保護者の方も登録すれば、本を借りる事もできます。利用規則は生徒と同じで、生徒の利用に支障が出ない範囲に限られます。詳しくはお気軽に図書館までお問い合わせください。

### \* 資料検索コンピュータの機能と使い方

図書館資料検索用のコンピュータOPACは6台ありますが、そのすべてで、日英両方の資料検索とインターネット検

索ができるようになりました。画面下の最小表示の部分に、この3種類が出ているはずなので、クリックして必要な機能を使いましょう。自分のユーザーネームで立ち上げ直すことはトラブルの元になるので、しないでください。また、OPACは資料検索優先なので、インターネット検索には階段下のコンピュータ4台が空いていない時だけ使うようにしてください。

### \* 開館時間延長

図書館の開館時間の延長については、以前からずっと要望があり、2002年度から、週2回、夕方6時までの延長を試行してきました。その状況を校長と司書教諭二人とで検討した結果、今学期からは、原則週5日毎日の延長に踏み切る事にしました。毎日図書館のスタッフが交替で残ります。とりあえず試行してみて、これから毎学期末に状況を振りかえって検討する予定です。

利用の仕方はいままでどおりで、SIS/OISの、主として高校生の勉強のために延長するものです。残る人には、英語の貸出デスク横にあるサインアップシートにSIS/OISの別、学年、名前、勉強する予定のこと、来た時刻、帰った時刻を書いてもらいます。4時半までにサインがない場合は、中止することもあります。この他に、中学生(6-8年生)は、備え付けの許可証に先生のサインをもらって、持ってこなければなりません。

これは、4時半以降学園に居残る生徒をきちんと把握して、事故のないようにするためと、どの学年の生徒がどのくらい何のために利用しているかという利用統計を取って、検討するためですので、皆さん協力してください。

## PSATテスト実施のお知らせ

10月18日(土)に、当学園にてPSAT(Preliminary SAT)が行われます。SATの模擬試験にあたりますので、アメリカの大学への進学や来年夏のTIP\*参加を考えている人の参考になります。SAT受験前に力試しとして受けてみませんか。(PSATは、1年に1回しか実地されません)受験する人は申込金を持って、カウンセリングセンター秘書(Rm340)まで登録しに来てください。(締切日厳守をお願いします)

実施日時: 10月18日(土) 8:30AM~

場 所: 3階会議室

申込締切: 10月10日(金)

申込費用: 1700円(おつりのないようして下さい)

\*SAT, PSATその他テストや、TIP等サマープログラム・在学中の留学についての問い合わせは0727-27-5061(カウンセリングセンター直通: 秘書 小野寺)へ。

# ネラングパバレー高校が本校訪問

中村亮介

社会科

去る、9月13日から22日まで、オーストラリア、ブリスベン郊外にある、ネラングパバレー高校の生徒20名、引率の先生3名がSISを訪問しました。同校からのSISへの訪問は初めてでしたが、2000年からSISのホームステイプログラムでSISの生徒をホストしてくださっている学校です。現在、姉妹校関係を結ぶべくオーストラリア、クイーンズランド州の州政府の教育省に同校が申請を行っています。

13日は夜、8時に関空に到着。11時近くにスクールバスでSISに到着しました。バスの中では長旅の疲れも見せず、夜の大阪の町並みをみんな珍しそうに見ていました。週末はそれぞれのホストファミリーと過ごし、16日から19日までSISでバディーとともに授業に参加しました。普通授業とともに、水曜日には箕面の滝、勝尾寺を見学したり、木曜日の放課後には茶道部の皆さんの協力でお茶席も経験しました。金曜日には千里中央へショッピング、また書道の岡部先生のご協力で書道の体験もしました。その後の「さよならパーティー」にも多くの人が参加して盛り上がりました。

7年生の社会の授業にも全員が参加。オーストラリアについて良い勉強になったと思います。英語の授業にも参加してもらいました。SISの生徒にとっても、ネラングパバレーの生徒にとっても良い交流の時となったと思います。22日の朝、学園を離れる時、多くのSISの生徒が玄関に見送りに来

ていました。抱き合っ  
て、再会を約束してい  
る光景も見られまし  
た。

このような、双方の  
生徒にとって良いプロ  
グラムが出来、また良  
い経験を生徒がしたこ

とを背後で支え、協力していただいた保護者の皆様、ご家族の皆様にご感謝いたします。

また、今回ホストのお申し出をいただきながら、それにお応え出来なかった生徒、保護者の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたこと、お詫び申し上げます。



## ペットボトル症候群

弥永千穂

保健室

コーラ、ジュース、スポーツドリンクなどの清涼飲料水を1日にどのくらい飲んでいますか？「ペットボトル症候群」という新しい病気が注目されています。これは清涼飲料水を飲みすぎることによって引き起こされる糖尿病です。なぜ清涼飲料水を飲むと糖尿病がおきるのかということの中に含まれる糖分の量に問題があるのです。ペットボトル500ml清涼飲料水の中の10%は糖分！50g前後の砂糖が入っているのです。この量は私たちが1日に必要な砂糖の量にあたります。いっけん体によさそうなスポーツ飲料やアミノ酸飲料なども同様です。清涼飲料水の甘さはさらにのどを乾かしてしまいます。そうすると、また清涼飲料水を飲んで・・・と悪循環をおこしてしまいます。そうすると血液の中に糖分があふれて、それをエネルギーに変える役目をするホルモンが対処しきれなくなります。糖尿病の症状

としてはひどいのどのかわき、おしっこが多い、体がだるい、急な体重の減少などです。意識がなくなって病院へ運び込まれるケースもあります。清涼飲料水を1日2リットルも飲んでしまうのはとんでもありません。もちろん水分は体にとってはとても大切。1日に0.8から1.5リットルの水分をとることが必要です。水、お茶、牛乳を積極的にとりいれましょう。清涼飲料水は最高でも1日1本まで。食べ物、飲み物が自由に手に入る環境は便利なのですが、自分でうまく選ばなければ自分の体を傷つけてしまい、将来的にいろんな病気をおこします。今は大切な体をつくっている時期。自分の口からはいる食べ物、飲み物に目を向けてみましょう。それがあなたの体をつくるもと、パワーになるのです。

# 感無量を味わった日

## HSスポーツーナメント

安藤ゆかり

高等部3年

去る6月27日金曜日の放課後、ハイスクールを対象にしたスポーツーナメントが開催されました。サッカー・二人三脚・大縄跳び・ドッジボールの四種目を五チームに分かれて戦いました。たった3時間のイベントだったにもかかわらず、盛りだくさんな内容で、白熱戦が繰り広げられました。このイベントは、多くの方々の協力によって成り立っていました。その感謝の意を込めてここに報告させていただきます。

事の始まりは、「学園のみんなが楽しめる新しいイベントを企画したい。」という私の願いからでした。私が高等部生徒会に入ったきっかけでもあるその新しいイベント作りというのを、任期が切れる最後の最後でようやく実現することができました。

私がこのイベントを真剣に考え出したのは5月の終わりで、時間的にも諦めかけていました。しかし、大迫校長先生の所へその件で相談に行ったら「やってみなよ!」という励ましのお言葉をかけてくださって、それが強みとなり、企画のところまでたどり着くことができました。私は、一緒に企画してくれる人の集まり具合でそれを進めていくか否かを決めるつもりでいました。幸いにも13名が快く引き受けてくれて、計画を進めていく事になりました。とは言っても学期末...。みんな忙しい中で、いつミーティングを開くかが第一の問題となりました。放課後はどの曜日もみんながそろわない、ということで朝のホームルームまでの時間を有効に使うということになり、週に三回×三週間、カフェテリアでミーティングが行われました。毎回話し合う内容はとても濃く、着実に物事が決まっていきました。正直、ここまで皆が真剣に取り組んでくれるとは思っていませんでした(ごめんなさい)ので、私は毎回委員の皆さんの真面目さに本当に感激しました。

そして当日、なんと午後からあいにくの雨・・・にもかかわらず、サッカーの審判を引き受けてくださったMr.Searle and Mr.Parler, Thank you very very much. サッカー以外はジムで行われました。スーパーバイザーになって、ジムまで足を運んで見てくださった大迫校長、心から感謝しています。ゼロからの企画を実現へと導いてくれたスポーツーナメント委員のみなさん、安積広晃くん、岩村春奈さん、角畑沙菜さん、加美野容子さん、金麻里さん、古座岩拓真くん、仲村望くん、西田沙織さん、牧野良さん(以上10年)、浅沼花奈さん、斎藤美葉子さん、友金未沙さん、松尾あずささん(以上12年)、本当にありがとう。参加者のサインアップの集まりが悪かった時、ものすごく弱気になってしまっていた私を支えてくれてありがとう。そして、スポーツーナメントに参加してくださったみなさん、どうもありがとうございます。スポーツに燃えている時のみなさんの姿、

## 語学資格試験の結果

2003年春から夏にかけて本校生徒が受験した語学資格試験の結果は以下の通りです。

### 英語検定試験

準1級	4名
2級	16名(01S生徒1名含む)
準2級	1名
3級	1名
4級	1名

### 国連英検 B級合格1名

TOEFL 受験者数8名(TWEで最高点が出ました)

スペイン語検定 5級竹上貴之(12年生)

SISの生徒で英検2級以上の級を合格した場合、またTOEFLで217点(コンピューター方式)または500点(筆記式)を取得した場合は、英語科3単位に換算しますので報告に来てください。

(水口香:英語科)

### 中国語検定 3級合格

SIS Grade 11-3 student Nakaya Meguru successfully passed the 3rd level Chinese Exam (Chiu ken 3 kyu).

(HweiLi-Driskill:Chinese)

とてもステキでした!ちなみに、優勝したDチームの皆さんには賞品としてアイス券をお配りしました。

その日の夜、私は本当に胸いっぱいでした。「感無量」というと大袈裟に聞こえるかもしれませんが、でも私にとってはいろんな意味で大きな企画であったのです。このイベントを通してたくさんの方のことを学びました。例えば、自分が一人ではあまりにも無力であること、またみんなで協力して得た結果がかけがえのないものとなっていること、が身に染みしました。このようなイベントが毎年恒例になる事を願っています。こんなに自由に生徒のしたいことを見守ってくださる学校は他には無いんじゃないかと思います。このような機会を与えてくださった千里国際学園に感謝しています。高三の秋学期になり、「卒業」を意識しながら過ごすようになった毎日は、本当に貴重でなりません。次の学校のイベントである「スポーツデイ」、みんなで盛り上がりましょう!!

## 空手で全国優勝と準優勝

6月28日29日に東京体育館で行われた第46回全国空手道選手権大会において、高等部2年生のウォーターハウス亜耶さんが個人戦高校生女子形の部で優勝、同じく高等部2年生のウォーターハウス美希さんが準優勝に輝きました。(ともに9月よりSISに編入)

以下は、空手マガジンにも掲載された亜耶さんのコメントです。

「両親や海外で暮らしている兄も大会になると応援にかけてくれるのでそういった事を励みに100%の力が出せたと思います。でも優勝はできましたが細かいところではいつもの悪いくせもでていましたので、これからも気を抜くことなく練習を続けていきたいと思います。」

試合結果は以下のサイトで見られます。

[http://www.jka-tokyo.com/46zenkoku\\_keka.html](http://www.jka-tokyo.com/46zenkoku_keka.html)

(井藤)



向かって左が美希さん、右が亜耶さん

## トライアスロン連続優勝

馬場博史

トライアスロンクラブ顧問、数学科

### ■グリーンピア三木トライアスロン

7月6日(日)兵庫県三木市で開催されたグリーンピア三木トライアスロンで、中等部3年の永田悠太君が見事中学男子の部で優勝しました。距離はSwim300m Bike10km Run3km、総合タイムは35分01秒でした。この大会は関西を主として全国から精鋭が集まるレベルの高いもので、優勝したのは本学園始まって以来の快挙です。

### ■高校第1地区陸上7月記録会

7月12, 13日服部陸上競技場。800m 2'38" 吉田英美(SIS10)、200m 100m 辻健三、100m 西名亮(以上SIS11)

### ■高校総体陸上地区予選会

7月21, 22日万博競技場。1500m 8位 5'23", 800m 3位入賞 2'35" 吉田英美(SIS10)(大阪府大会進出決定)、100m 辻健三、西名亮(以上SIS11)

### ■中学総体陸上大阪府大会

7月24, 25日万博競技場。1500m 予選 4'57" 花光照宗(SIS8)、5'50" 奥村悠(SIS9)

### ■中学陸上池田箕面大会

8月18日服部陸上競技場。1500m 半田

将一、小澤悠、800m 吉田紗智(以上SIS7)、100m 中島宏文(SIS9)、清水航(SIS8)

### ■高校総体陸上大阪府大会

8月21, 22, 23日長居第二競技場。1500m 予選 5'40", 800m 予選 2'40" 吉田英美(SIS10)

### ■中学総体陸上地区大会兼予選会

8月24日服部陸上競技場。3000m 7位 10'30" 永田悠太(SIS9)(大阪府大会進出決定)、3000m 小澤悠、1500m 半田将一、800m 吉田紗智(以上SIS7)、100m 清水航(SIS8)

### ■吹田市長杯トライアスロン大会

9月7日(日)まだまだ厳しい残暑の千里北公園で開催され、中学男子、一般女子、壮年男子の部で優勝しました。

<入賞者> 小学生(Swim125m Run1.4km) 男子 3位 Kento Saito-Baba(OIS5)。中学生(Swim500m Bike10km Run2.8km) 男子



恒例の吹田市長杯トライアスロン大会を終えて

1位 永田悠太(SIS9) 2位 花光照宗(SIS8) 3位 半田将一(SIS7)。高校生以上(Swim1000m Bike20km Run5.6km) 一般男子 3位 Kenji Dohma(OIS卒業生)、一般女子 1位 平井太佳子、壮年男子 1位 馬場博史 2位 John Searle(教員)

<他の参加者> 小澤悠、スウェットジョージ(SIS7)、Christine Syrad(OIS11)、谷畑雄一、細谷花(SIS11)、安藤ゆかり(SIS12)。

(注) 陸上競技の記録は大阪府大会および大阪府大会進出決定分のみ掲載しています。

# SPP(サイエンス・パートナーシップ・プログラム)

## 「科学技術・理科学習プログラム」秋・冬学期全体計画のお知らせ

土佐礼子

理科

平成15年度、秋・冬学期のSPPの予定をお知らせいたします。このプログラムは大阪大学大学院理学研究科が文部科学省の支援を受けて千里国際学園高等部と連携し、理科系、文科系を問わず多くの高校生徒の皆さんに科学・技術への興味と理解を深めてもらおうというものです。昨年度のシリーズは、お蔭様で皆さんのご支持によって成功裏に終えることができましたことを感謝いたします。

さて、今回はさらに生徒の皆さんの興味と希望を取り入れ、前シリーズの形態を発展させたプログラムになっています。基調テーマ「自然と共生する新しい化学を実験する」のもとに4回シリーズで、各回とも先生の授業のあと、生徒皆さん自身によるグループ実験を行います。

「自然共生化学の創成」は、次世代の化学のあるべき姿を指向する、大阪大学独自の未来型研究・教育プロジェクトです。本連携講座では、このプロジェクトを実施している現場で日々研究に携わっておられる先生方の直接指導のもとに、次世代を担う皆さんに対して、理科、特に化学の本質的な意義は何であるかを、4つのカテゴリーでの生徒実験を通してわかりやすく体験してもらい、実験の中から自らの知識と考えて、自然と共生する新しい化学に触れ、深い理解につなげることを目指しています

以下、各回のテーマと概要を紹介いたします。

### <秋学期>

9月30日(火) 13:30~15:30

テーマ：「環境と生命サイクルを支配する化学反応を実験する」

講師：笠井俊夫先生(大阪大学大学院理学研究科・化学専攻・教授)

概要：地球温暖化、成層圏オゾン層破壊など環境破壊を引き起こす連鎖反

応、また体内時計のモデルであると考えられているBZ型振動反応を実験し、複雑・開放系における化学反応を理解する。

10月31日(金) 13:30~15:30

テーマ：「太陽電池はどこまで進化したか？」

講師：小林光先生(大阪大学大学院理学研究科(兼任)/産業科学研究科・セラミック機能材料研究分野・教授)

概要：太陽電池の受光と発光ダイオードの電気回路を使用し、太陽電池の原理とその光特性を理解する。

### <冬学期>

12月8日(月) 13:30~15:30

テーマ：「燃える氷!?メタンハイドレート」

講師：大垣一成先生(大阪大学大学院基礎工学研究科・化学工学分野・教授)

概要：化石燃料に代わる次世代のもっとも有力なエネルギー源と考えられるメタンハイドレートの分解および燃焼実験を行い、基礎と応用について考える。

1月下旬(日程は調整中) 13:30~15:30

テーマ：「原子力・核融合と放射性同位元素」

講師：篠原厚先生(大阪大学大学院理学研究科・化学専攻・教授)

概要：二酸化炭素の放出抑制には非化石エネルギー源の開発が必要であるが原子力発電はそのひとつである。その発電原理を学び、放射性同位元素の基礎理解を深めるためガイガー検出器等を用いた実験を行う。そこから自然界における放射性同位体の諸現象と化学の関連性を理解し、その安全な応用についても考える。

以上4回の実験講座はすべて、大阪大学大学院理学研究科の学生実験室及

び関連実験施設において大学院修士学生の実験補助のもとに行います。

(注)上記の時間帯は、大阪大学での講義と実験の実質時間であり、学園からバスで移動のため、12:40に出発します。つまり、参加生徒は、5,6,7次限目がSPPのため欠けになります。

従来のSPP同様、上記各回とも10日前頃に改めて詳しい案内を配布します。

また今までどおり、参加希望の生徒および中・高生保護者の受付をしますが、今回のシリーズは基本的に科学の関連クラスの生徒への必修にすることになりましたので、その他の生徒(高校生のみ)および保護者の参加は、余裕人数によって申し込み受け付け先着順になります。

保護者の方々へ：

オブザーバーとして受講・生徒実験の見学をしていただけますが、万一の事故の際の保険の関係上、直接実験はできません。

中学生の皆さんへ：

科学の広い世界を知ってもらうために、今後もSPPの案内状を配布しますが、参加は高校生になるまで待ってください。しかし、特に強い希望がある場合は直接、土佐まで相談にきてください。

なお、今までのSPPでご講義いただいた先生方から、本学園生徒の積極的に生きいきした受講姿勢に対して、大学生対象の授業とはまた違った、新鮮で楽しい時間であったとのコメントをいただいています。このプログラムがさらに充実して、高校・大学にとって相互の連携が深められ、科学を通して高校生の皆さんにさらに視野を広げてもらえることを願っています。

# <数学科> フィボナッチ数列について調べました

## 春学期数学Aの授業から

馬場博史

数学科

フィボナッチ数列は、直前の2項の和が次の項になるという一見単純な規則の数列です。名前の由来は、イタリアの数学者フィボナッチ(1170~1250)が1202年に著した「算盤の書」の中で「ウサギのつがいの問題」として初めて紹介したことによります。

1963年に設立されたフィボナッチ協会(<http://www.mathstat.dal.ca/Fibonacci/>)による正式な定義によると、フィボナッチ数列は、初項と第2項を1として、1、1、2、3、5、8、13、21、34、...となる数列のことをいい、これらの数をフィボナッチ数といいます。

こんな簡単な規則の数列ですが、面白い性質をいっぱい持っていて、自然界にも多く存在する不思議な数列です。上に述べたウサギのつがいの問題の他に、樹木の枝分かれのしかた、ひまわりの種・ひな菊の花・松ぼっくり・パイナップルの実の並び方、植物の葉の配列など、例を上げればきりがありません。

フィボナッチ数列の一般項(第n番目の数)はビネの公式という次の式で表せます。

$$a_n = \frac{1}{\sqrt{5}} \left\{ \left( \frac{1+\sqrt{5}}{2} \right)^n - \left( \frac{1-\sqrt{5}}{2} \right)^n \right\}$$

各項はすべて自然数なのにその数を求める式に根号のあることがまず不思議

ですが、さらにこの中の  $\frac{1+\sqrt{5}}{2} = 1.61803398\dots$  という数(またはその逆数  $0.61803398\dots$ )は、古代から最も美しい比として知られている黄金比の値になっています。これは、正五角形の辺と対角線、パルテノン神殿のたてと横、ミツバチの群の雌雄、株価の変動幅などの比にも見られます。理想の体型の身長とへその高さの比もこの黄金比になっているそうですが、あなたは

どうですか。一度自分のを測ってみて下さい。

初項と第2項が1でなくても直前の2項の和が次の項になる数列はすべて「一般フィボナッチ数列」といいますが、その中でも特に、初項が1で第2項が3のものを「リュカ数列」といい、一般項が次のようなきれいな形をしていて、その性質がまたさらに研究の対象になっています。リュカ=Lucasはフランスの数学者でフィボナッチ数列の命名者です。

$$a_n = \left( \frac{1+\sqrt{5}}{2} \right)^n + \left( \frac{1-\sqrt{5}}{2} \right)^n$$

最近わかったこととしては、フィボナッチ数の逆数の無限和が  $3.35988566\dots$  という数に近づき、これが無理数であることが1989年に証明されました。実際グラフ電卓で計算してみたら100番目までの和で小数点以下8位まで一致しました。試してみてください。

前置きが長くなりましたが、春学期の数学A(旧課程)の授業で、このフィボナッチ数列について調べたこと、考察したことをレポートしてもらいましたので、そのうちの考察の一部を紹介します。

佐々木真子(11-1)

同年代の人たちが理解できない程難しいことが発見できたということは本当にフィボナッチが勉強熱心で天才的な数学者であったことを証明していると思う。しかしフィボナッチ自身は自分の新しい発見が周りの人たちに受け入れられなかったと考えなかったのだろうか。自分の達成したことがあまりに周りの人たちが無反応なので果たして自分が発見したことは本当かと疑わなかったのだろうか。詳しいことは分からないが、フィボナッチの数列の発見は亡くなってからの方が人々に理解

され感心されたのは確かだ。自分が発見したことは少なくとも生きている間に人々に理解してもらいたいものだが、それが実現しなかったフィボナッチは少しかわいそうだった。

自分の身の回りにある自然でこんなすごい発見ができる、というのはすごいと思った。逆に考えると自然が保つ秩序、というのを改めてすごいと思った。フィボナッチ数列は兎以外でも、松ぼっくりや木の枝分かれ、蜂の繁殖等にも見られ、ちゃんとした“数列”になっている。ただできるまま偶然に枝が分かれ、子どもができるのではなく、ちゃんと秩序正しくできている。これを発見したフィボナッチもすごいけれど、そのもとの自然もすごいと思った。

堀池奈未(11-1)

ガリレオも「自然という書物は数学の言葉で書かれている」といったらしい。自然界に表れる現象を数学で説明をつけるというのは、昔から人間が取り組んできた研究であって、フィボナッチ数列もそのなかの一つということなのだろう。数学というものが、さまざまな分野において効率的な答えをだすための計算をするという目的だけでなく、自然界の営み、法則を説明するのに役立つというのは私の視点をかなり変えた。

このように自然界と密接に関係するフィボナッチ数列や黄金比のような「きれい」な数字はやはり人間にしくりとくるというのが説明できる。だから、芸術にもとりいれられてきたのだろう。もしかしたら、一番人間が心地よいと感じる風の速さや水の流れ、音の波長なども詳しいことはわからないがフィボナッチ数列や黄金比に関係があるのかもかもしれないと思った。

富川 理(11-1)

色々なページを見ていると家の設計図もフィボナッチ数で作られているのもあると知って驚いた。フィボナッチ数列が黄金比と関係があるとは知らなかった。フィボナッチ数列を比にして表していくとそのうちにその比が黄金比に近づくのは驚いた。

数学はまったく自然のものからは関係がないと思っていたが、最終的にはフィボナッチ数列が関係しているのが分かった。例えばオーム貝、ヒマワリなど。このように、色々な数学の公式が自然界と一致するのが不思議である。

榎 皆実(11-3)

私をはじめにフィボナッチ数列を習ったのは9年生のときだったが、2年たってやっと友達になれた気がする。証明できる話も神秘的な話も、フィボナッチ数列だけじゃなくて数学

そのものの魅力だと思う。そして「数学」と括られた範疇だけではなく、美術の世界や生物や経済までに関わってくる要素を持つこの数列は、「数学なんて何の役にたつねん。」という一般高校生の常識を覆すものだ。数学は論理的思考を養うため、と村上春樹は言っているが、確かに楽しむコツを見つければ、この学問は人間が自然界に見つけた論理的なゲームのひとつであるように思える。

岡林弘樹(11-3)

フィボナッチ数列は自然界のあらゆる物に見られます。巻き貝やひまわりの種などはフィボナッチ数列によってその形が作られています。これは、僕だけかもしれませんがここまで色々な物、しかも自然の物、つまり人工的でない物に現れるとある意味一種の恐さを感じてきます。まるで魔法の数列のようにこうも色々な所から出てくると

すごいというのと同時になにかちがう感情がでてきました。言葉にはしにくいのですが何者かに遊ばれているかのような感覚です。

井上 朋(11-4)

フィボナッチ数列について調べたところ、私はいかにフィボナッチ数列が考えて作り出されたかよりも、「黄金比」の歴史に興味を持ちました。フィボナッチ数列とだけ聞くとあまり私たちの身の回りで見当たらない気がしますが、フィボナッチ数列にかかわりのある黄金比としてだと、身の回りがある物が気付かないうちにあるという事に気付きました。今回フィボナッチ数列に関して調べた事によって、これからは暇を見つければ身の回りにある物をどれが黄金比となるのか測ってみようかと思えます。

## <理科> 中1臨海実習

斉藤 数

理科生物担当

毎年理科では、中学1年生を対象に、9月の中旬に臨海実習を実施しています。今年は、前線の影響で天候を心配していたのですが、心配が的中して、岸和田あたりをバスが通っているとき、かなりのザーザー降りとなりました。乗客全員がそれぞれなりに意気消沈し、今まで元気に歌っていた歌もいつしか小さい声になるのです。しかし、実習地の岬に近づくと、雨が小降りとなり、ほぼやんでしまいました。いつもだと、残暑の中、汗を拭き拭きの実習ですが、今年は、曇りのおかげで実習に集中することができ、午前中多くの生物を採取することができました。食後はそれらの生物をスケッチし、採取した生物を全員で観察し、海に戻して、予定通りの実習を終えることができました。



## Head's Update

Karin Caffin

*OIS Head*

Welcome back to school!

I trust that you all had a great summer holiday. School has begun smoothly and the students seem pleased to be back at school, and hopefully they are ready to work. Social relationships at school are important for all of our students, and they will have ample opportunity to enjoy those relationships, be it through sports, lunchtimes or clubs. We say that we are a 'College Preparatory School' and thus we expect the students to give priority to their academic work. We have an excellent team of teachers who can provide the necessary academic challenges, but it is the students who must take responsibility for their own learning. I asked all the middle and high school students to work hard this year, and to "do an honest days work" and that the teachers, principal and I would monitor their progress.

English and Japanese

Being an international school we do have students from many different countries, with varying levels of English. But our school is special due to our relationship with SIS and because of that a lot of Japanese is spoken on campus. We can be proud that many of our students speak Japanese very well, but each year one of the greatest concerns that we have is that the students often use Japanese when they should be using English. Our academic program demands a high level of English and I would like to remind all students and parents about the importance

千里国際学園中等部・高等部(SIS)ではこの広報誌"インターカルチャー"が発行されていますが、併設の大阪インターナショナルスクール(OIS)では隔週金曜日に"Educator"が発行されています。

ここでは"Educator"の記事の中で、OISの様子がよく分かるものやSISと関連する話題等をセレクトして掲載しています。

of speaking as much English as possible at school. It is important that parents show that they value English by speaking it when they are on campus, as you are role models for your children and the other students.

New Teachers and Students

This year we have three new teachers, and we welcome Mr. Andrew Powell, our grade three and four teacher, Mrs. Diane Holloway, our new MS/HS science teacher, and Mr. Simon Mills, the grade 6/7 Language Arts and Social Studies teacher. We also have 50 new students in OIS, with our enrolment higher than it was this time last year. We have 250 students but that number may be a little lower as it is possible that one or two students may not return. Welcome to all the new students and families, we hope that you will enjoy your time at OIS. At the admissions interviews I talked to all families about our communication policy, and that they should see their child's teacher first with any issues or questions regarding their child or the program. I would like to remind all of the parents about this policy and the importance of keeping the channels of communication open between home and school. I also talked about the importance of helping out at school by volunteering for class and school activities. The International fair is not so far away and I know that all parents will be asked to help out with this important activity.

(September 6 - 19 issue)

Korean Furniture Sale

Another date to put on your calendar is the Korean Furniture Sale. Two years ago the OIS PTA hosted this event and it

proved to be a very good fund-raiser, with lots of furniture items, both large and small being sold. I am assured that

this year there will be a lot of interesting items available. The date is set for Saturday and Sunday, November 8 and 9

The furniture will be displayed in the genkan.

(Sept. 21 - Oct. 4 issue)

## Middle/High School Update

Gwyn Underwood

*OIS Middle and High School Principal*

Welcome Back

Welcome back from what I hope was a relaxing summer holiday with your children at home. The school year has begun well, with a good number of new students joining us this year - we now have 56 students in the middle school and 72 in the high school (with 250 total in OIS at present). I would also like to give a special welcome to the new families, and look forward to working with you as we strive together to provide quality education for your children.

MS/HS Back to School Night

I look forward to meeting you all in person at our upcoming MS/HS Back to School Night on Friday Sept. 19th. This will be a time where you can learn about the courses your children are taking, and meet their teachers. I will also give grade 6-10 parents our new MYP Curriculum Handbook on the night, along with more information on assessment changes to take place this year. I will be sending out a detailed schedule shortly, however for now, please keep your calendar free for this event. It will begin at 5:55 p.m. in the Theater and will finish at 9:00 p.m. See you there!

(September 6 - 19 issue)

How to get a good sleep

Every now and again, some students come to school late miss school completely, or "nod off" in class. A common excuse is, "I was studying till late last night and slept in". Oftentimes, students feel ill in the morning - and admit they went to bed very late. Here are some practical tips on how to get a good sleep so as to prevent this happening and to be alert and ready for the day.

Set a Schedule - Try to go to bed at the same time every night and get up at the same time - this will help your body get into a good sleeping cycle.

Exercise - Try to exercise at least 20-30 minutes a day - but do it about 5 hours before going to bed

Stimulants - Avoid drinks that contain caffeine (coffee, chocolate, some soft drinks, non-herbal teas, diet drugs, some pain relievers). FYI nicotine and alcohol also affect sleep in a negative way.

Relax before bed - A warm bath, reading or other relaxing routines can make it easier to sleep.

Environment - Control your room temperature - extremes will make it difficult to sleep. People usually sleep best in a cool dark environment. Invest in good curtains if you have lights outside. If possible, wake up with the sun, or be in the morning. Sunlight helps the body's internal clock reset itself each day. A quiet environment is also helpful for most people.

Don't lie in bed awake - If you can't sleep do something like reading or listening to soft music until you feel tired. Anxiety of being unable to sleep can contribute towards insomnia.

Deal with stress - Try jotting down notes on how to deal with problems to settle stress before trying to sleep.

Cut naps short - If you have trouble falling asleep, consider avoiding naps - at the very least consider limiting them to less than an hour in the mid afternoon.

Time management - Students need to practice good time management to ensure they are not stuck doing homework that is due the very next day.

Grab a snack - If your bed time is quite a bit later than dinnertime it is hard to sleep hungry, so try a light snack. Some researchers think milk helps (as it contains tryptophan)

Get enough sleep - Everyone is different; however as a general guide, most 7- 11 year olds need at least 9 hours sleep a night; Teenagers should get at least 8 hours a night; Basically, if you find your child is getting tired during the day, try extending their sleeping hours. A well-rested body will generally wake at a regular time without the feeling of needing more sleep.

TV's and computers - Some research indicates bright screens affect melatonin levels and may contribute to sleeplessness. In addition, TV and computer activities can be

addictive to some children, so they want to keep going

Get help! - If still have problems after trying the above, try researching the topic yourself (try [www.sleepfoundation.org](http://www.sleepfoundation.org) and/or go to see a doctor to ensure you do not have a sleeping disorder.

[ Sources: National Sleep Foundation, "How to Sleep Well", Stanford University Sleep Disorders Clinic and Laboratory and [www.sleepfoundation.org](http://www.sleepfoundation.org) ]

(Sept. 21 - Oct. 4 issue)

## Elementary Update

Rod Adam

*OIS Elementary School Principal*

### Staffing Change

Ms. Kumiko Kamatsuka, Kindergarten Assistant, has returned to Japan with Early Childhood qualifications and experience from the U.S. Although Mrs. Candy Elmer will be missed in Kindergarten, we are pleased she is team teaching the two Grade 5 classes, up in the 'rain forest rooms' on the 3rd floor. Our third staffing change is as follows:

G'Day! G'Day! My name is Andrew Powell and I will be joining the elementary team as a Grade 3/4 teacher. This is my eighth year as an educator, having taught in my native country Australia, Germany and most recently Venezuela. I am very excited to be joining the OIS community and facilitating an inquiry-based approach to learning in the classroom. My previous experiences with the Primary Years Programme were most positive and I am looking forward to watching the children at OIS take their first steps as lifelong learners.

Like many Australians, I am sports mad and can often be found outside enjoying activities such as running, swimming, cycling, hiking and diving. I also enjoy reading, going to the movies and occasionally lounging around on the couch. The prospect of exploring the wonders of Japan also excites me and I am looking forward to the many experiences that await me here.

New School Year : New School Habits

Aristotle wrote, "We are what we repeatedly do. Excellence, then, is not an act, but a habit." \*Habit is hard work in disguise - practicing over and over until it can be done with ease and accuracy. Parents, students, teachers and administrators are starting a new year with opportunities to form new habits.

One goal in elementary school is to speak English at school, except in Japanese classes. Parents can respect and reinforce the 'English habit' with their child(ren) and with each other during the school day - not only in the classroom but also in the genkan and cafeteria, on the playground and during field trips. Together, we can achieve excellence.

\*Nicomachean Ethics by Aristotle, 350 BC, translated by W.D. Ross

(September 6 - 19 issue)

OIS Japanese Language Students Best In The World!

Starting in November, people from young to old turn their thoughts to forming original Japanese haiku for the world-famous Itoen Shin-Haiku contest. By the time the deadline arrived last February, well over 1 MILLION haiku were submitted worldwide for the 14th annual contest.

Included in the 1,277,946 haiku received by the contest were poems written by 60 OIS students. Every haiku was evaluated carefully by a panel of judges before the results were announced in July. We are so proud to announce that Honorable Mention prizes (Kasaku) were awarded to Madeline Duppenhaler and Kaoruko Mukoyama, formerly third and fourth grade students. Congratulations, Madeline and Kaoruko, your haiku are truly "one in a million"!

*Uma no mimi Ushiro ni ikuyo Okotteru*  
by Madeline Duppenhaler

*Papa no bun Tabeteageru yo Fuku wa uchi* by Kaoruko Mukoyama

(Sept. 21 - Oct. 4 issue)

# 保護者会だより

## 第3回定例会報告

2003年5月29日(木)13時～15時30分

於会議室

### 1. 平尾教頭先生より

・現在の生徒数は、SIS・421名 OIS・236名 計657名となっている。

・少子化に伴い生徒数の激減で厳しい学校経営がなされている中において本校は口コミの信頼度により志願者は増えている。

・5月20日(火)に授業参観日を設けた。独自のカリキュラムによる教育内容なので保護者の方も分かりにくい点が多いと思う。学期ごとになんらかの形で教科説明の機会を設けることを考えている。

・5月24日(土)に学園祭が行われた。生徒会が中心になって行われ、教師は見守るという例年通りのものであった。後夜祭が8:00PMに終了。全ての片付けが終わって9:00PMに下校となった。

・全ての生徒に知らせているが、校内での飲食は、生徒ラウンジ・カフェテリアのみとしている。またアンスケ時の生徒が廊下等で騒ぎ、授業の邪魔になっていることが見受けられる。これらの事に対して今後生徒への注意を促していきたい。

・6月の行事予定 \*救急講習の実施  
\*6/6 - 11年生歌舞伎鑑賞 \*7月1週目 - サマーキャンプ \*7/12 - オーストラリアホームステイ \*7月1週目 - 成績表送付

・委員会の皆様には行事等でお世話になりますが本年度も宜しくお願いします。肩の力をぬいてお願いしたい。

### 2. 保護者会総会の感想(及び授業参観)

・短い時間でスムーズに終わった総会だった。

・授業がホームルーム単位ではないので、子供のクラスが分かりにくかった。

<平尾教頭先生発言> : 9年生から選択授業が広がりホームルーム単位はほ

とんどない。ぜひ子供のタイムスケジュールを知ってほしい。授業参観を平日に希望する場合は、担任に届け出てから。

・委員の選考方法が明確でない点があるので、指名委員をにおいてはどうか。

・保護者会費の使用用途は明白にしてほしい。

### 3. 各委員会からの活動計画と報告

#### 広報委員会

6月号のインターカルチュアの原稿をありがとうございました。10・11月号の原稿の締め切りは馬場先生に確認し追って連絡する。原稿はレイアウト等を考えずに送っていただいてよい。

#### インターナショナルフェア委員会

5月総会時にアンケートを実施した。5/6に委員会を開いて話し合いをした。引継ぎノートを見ると、過去に栗原先生の講演会があり話を聞いてみたいという声もあったので、栗原先生の承諾を得て、6/23 午後1時から会議室で講演会を予定している。6/9に委員会開催を予定。

#### ネットワーク委員会

4/15 名簿作成。5/27確認作業。6/9名簿配布予定。

5/6リーダー会27名中24名参加。気軽に参加できるものにしてもらいたい。保護者会室のドアカレンダーに全ての行事の日程を書き込んでほしい。それを見ながら地域の懇親会の日程を考える。

#### ボランティア委員会

4/21新旧委員長・副委員長が集まり昨年度の問題点を話し合った。4/30活動開始。6/6スポーツバンケットで手作りのサブマリンサンドを提供する。6月の学年懇親会などの場で、委員以外の保護者のボランティアへの積極的な参加を呼びかけていきたい。

### 4. 献血について

三浦から： 昨年9/5に亡くなった長谷彩さんのお父様から献血に取り組んで

ほしいとお話があった。今年は是非したい。当初はインターナショナル時を考えていたが、駐車場の問題、保護者の忙しさの問題を考えると難しいので、9月あたりはどうかと考えている。生徒会にも投げかけ、SIS・OISの生徒・保護者全てで取り組んでみてはどうか？

この問題は今後も学校側、生徒たちと共に考えていく。

### 5. OISとの交流について

・従来通りでいくとインターナショナルフェアがOISとSISの交流の場。

・ネットワークで声をかけてみるのはどうか。

・SISでの催しの時、OISの保護者にも声をかけてみてはどうか。(保護者会費の点で問題があったこともある。)

・SISでの活動(フォーラムやボランティア)の状況をOISへの手紙(英語)で配布してはどうか。

### 6. 連絡及び確認事項

佐野：諸費用については定例会毎に清算する。金額が大きい時には会計から仮払いもする。その都度連絡のこと。

三浦：懇親会の経費は全て学年費でまかなってほしい。保護者会室の備品は使わないように。委員会活動の際は可。リーダー会でのものはまとめて買ってほしい。大量に使う時や補充が必要なときは獅子倉まで連絡。だれでも使用できるものは、箱などに入れてわかりやすく区別するようにしたい。保護者会室のドアのカレンダーに懇親会の予定を記入する。左側には委員会名、右側は行事を記入のこと。

### 7. 各学年懇親会日程

6/3～8年生 6/4～12年生 6/10～11年生 6/11～10年生 6/12～9年生 6/19～7年生

### 8. 予備費について

・100万円近くある予備費をどうするか？ 15周年記念もふまえて。

・学校のTシャツ、紋章入りバインダー等を作ってみたらどうか？そのための元金にすれば売り上げにつながる。

・卒業式時のガウンはどうか？

・学校側では大阪府に対して、理科教材の補助の申請をすることを考えている。学校サイドの要望も聞きながら、子供たちのために有効利用していく方向で検討していく。

#### 9. その他

・各委員会の引継ぎがスムーズにいくため、ノートに活動記録、手法などを書き留めておく。次年度の委員が同じ活動をする必要はないが、参考にできるのではないかな。

・OIS会長 Mrs. Hespiaが合流し、簡単な挨拶を頂く。

・下村さんから施設利用届け提出の件：1週間前に必要事項をメールで連絡いただくと、私を手配する。OKかどうかでもすぐにお知らせできるし、調整もできるのでその方がよいのではないかな。

## 第4回定例会報告

2003年6月26日(木)13時~15時30分  
於会議室

#### 1. 大迫校長先生より

近隣の住民から路上駐車について強いクレームがあった。以前からもあったが、これを契機にして何らかの方策をとるべく対策委員会を発足した。学校ができる最大限の努力をしながら、近隣の住民の協力を求めるという姿勢である。保護者の方々には、今の時点で来校の際は公共機関を利用してもらいたいとしか言えない。学校からの手紙について行き届いていないこともある様なので校長名でホームページに載せることも検討している。

#### 2. 各学年懇談会の報告

7年生：駐車場の件では、公共機関を使ってということ、連絡網を使って念をおす方が良いかな？

校長：とりあえず、そうしてほしい。

7年生：懇談会は、初めてのことだったがたくさんの方が参加した。インターナショナルフェアでは、おにぎりとお汁物の予定。

8年生：年間を通じて全教科の授業を見たいという意見があった。インターナショナルフェアでは、やきとり

9年生：出席率は良かった。4名の担任の先生がおいでになり、子供の日頃の様子、子供との接し方などの話があった。インターナショナルフェアでは、パン・お菓子などを販売する予定。

10年生：カフェテラスのいすを増やす事はどうなっているか？冷房も強すぎるのではないかな？インターナショナルフェアでは、体育館でゲームをする。

校長：もう少し時間を頂いてきちんとする。冷房もこまめに消す努力をしていく。

11年生：事前に意見を集めて先生方に丁寧に答えて頂いた。受験に関して真剣に考えている親も多く、きめ細かな対応を求めている人もいる。

校長：11年生については直接答える機会をもちたいと考えている。

三浦：教育討論会についてどのような形で行えばよいか相談したいと思っている。

校長：必ずやる。リクエストにあった形でしたい。

12年生：学校のシステムについてもう少し色々な情報を細かく出してほしいという希望があった。進路説明会と併せて懇親会を行ったので出席率も良かった。インターナショナルフェアは、今年も中心になってくださる方がいる。

#### 3. 各委員会からの報告

##### ボランティア委員会

6月6日、スポーツバンケットにて110食の食事サービスをした。メイプルホールでのコンサートでもティーサービスを行い喜ばれた。

##### ネットワーク委員会

6月9日に地域名簿を配布した。

##### フォーラム委員会

6月23日に栗原先生を講師にお招きして第1回目の講演会を行った。80名が参加し、楽しかったという感想が多かった。インターナショナルフェアで30分くらいの出し物を企画し、お手伝いをしたいと考えている。保護者会の意見を聞きたい。

##### 広報委員会

9月10日が次号の締め切り。9月9日に原稿が届くようお願いした

い。卒業生のその後を特集していくつもり。ミミコーナーへの意見を聞きたい。

##### インターナショナルフェア委員会

6月20日にOISと話し合った。駐車場問題を解決したい。クラフト製作に没頭している。火・金曜日に製作しているので、協力を呼びかけたい。

#### 4. 献血、駐車場問題について

三浦：献血について、生徒会長と話し合った。彼らも考えていたようだ。9月初めに親の承諾書を配り、9月最終週に行きたいと考えている。インターナショナルフェアでの駐車場について、駐車場を借りるために実施日を変えようとしたが、OISとかみ合わず変えられなかった。お互いに徐々に歩みより、うまく対処していきたい。

下村：駐車場については住民の気持ちを考えながら、今出来る事をしていきたい。その先に解決できる方法があると思う。

#### 5. インターナショナルフェアについて

・駐車場については、学校と歩調を合わせながら検討していく。

・フォーラム委員会で、インターナショナルフェアでの1企画をお手伝いすることを検討してみる。

#### 6. その他

上林：各委員会で出した手紙は、定例会時に上林に提出の事。

堺谷：留学生の保護者への手紙はどうすればよいか？

三浦：各委員会にお任せする。

教育討論会について、どのような形式で行うか、検討して行く。

インターナショナルフェア委員会から

## 11月22日(土)インターナショナルフェアに向けて

- \*出店・エンターテイメント大歓迎！
- \*クラフト部門でのボランティア募集
- \*寄贈品の受付

インターナショナルフェア委員会(SIS&OIS)両校の保護者会が主催するビッグイベントです。11/22(土)の開催に向け夏休み前から企画準備を進めています。9月から引き続き毎週火曜日、金曜日下記スケジュールにて保護者会室 ROOM #120をオープンしています。皆さんの参加お待ちしております。

9月	火	2	9	16		30
	金	5	12	19	26	
10月	火		7	14	21	28
	金	3	10	17	24	31
11月	火	4	11	18		
	金	7	14	21		

活動時間は AM10:00～15:00まで。都合のつく時間にいらして下さい！！学校が休校になった場合は中止です。

ご質問・問い合わせ	出店部門	長尾	06 - 4863 2805
	エンターテイメント部門	大園	072 223 4487
	クラフト部門	内田	072 720 7846
	贈答品部門	岩村	06 6872 0550

### <お便り>12年生保護者の方から

悔いなし:ただ感謝のみ

ウィリアム・エルダー

12-4

息子がSISの中学校に入る数年前から、千里国際学園はユニークでいい教育を目指していると聞いておりました。だから、大きな期待をもって六年前に入学試験の場に参りました。今卒業を前にして振り返ると、私達家族全員にとって期待以上の素晴らしい教育と楽しい学校生活ができたと思っております。

校則の代わりに自分・他者・環境に対する「respect」を持つこと、そうするためには「respectとはなにか」を当然学ばなければなりません、それは人生にとって非常に大事なことです。

SIS・OISの音楽教育には、ただただ頭が下がります。少ない人数の生徒を指導して、毎年あんな素晴らしいコンサートができることは、並々ならぬ忍耐強い教育の成果です。音楽に親しむその経験は生徒たちの一生の宝物になると思います。

スポーツのプログラムにおいても、いろいろなスポーツを経験できることはいいことだと思います。お互いの成長を助け合いながら、勝つ喜びばかりではなく、スポーツをする喜びも知ること。(前者よりも後者の方をたくさん経験したでしょう)それも人生の大事な教訓です。

何回か授業を参観しましたが、暗記することではなく自分で考える姿勢は私の教育理念でもあります。先生たちが、生徒が自分のbestだと思っていることよりもちょっとのことにchallengeすることを促す姿勢をもち、それに生徒が答えているのは頼もしい限りです。

以上のものに加えて、毎日自然に味わえる他民族、多文化の交わりは21世紀を担う若い人にこの学校がおくる最も必要な教育だと思います。まさにユニークな、豊かな教育の場です。ただ感謝の気持ちで一杯です。

## 保護者会から

9月25日(木)に保護者会主催、SIS・OIS生徒会協力で献血が行われました。献血当日の様子は次回のインターカルチャで報告させていただきます。なお、今回の献血の呼びかけに際し寄せられた、長谷彩さんのお父様からのお手紙をここに掲載させていただきます。

千里国際学園の皆様

次女彩が夭折いたしましたして早一年が経過しようとしています。

その節には多くの方々から暖かいお励ましそしてご心配をいただきました。またお別れ会には生前の娘を知るお友達を中心に予想もしなかったほど多数の方々に見送っていただき、親として感謝にたえません。本当に有難うございました。

娘は白血病という血液のガンを1999年1月に発病、以来最新の治療を英国でうけ一度は完治し帰国いたしました不幸にして再発、本人も精一杯頑張ったのですが、彼女自身の運命に導かれ17歳を待たずに天国へ行きました。亡くなった日には今まで見た事がないほどの大きな虹が天空にかかっておりました。

白血病は決して不治の病ではなく今の医療レベルでは治る病気の一つとなっております。娘は不幸にして亡くなりましたが、その闘病中には英国や日本の多くの方々から膨大な量の血液をいただき治療を続けることができました。人々の善意を今もってひしひしと感じておりまと同時に、血液を提供していただいた見も知らない方々一人一人にお礼を申し上げたい気持ちでいっぱいです。

この病気だけではなく世界中にはたくさんの方が血液を必要とされておられます。娘の遺志という訳ではございませんが、大切な血液のことまた多くの方々からの善意をお伝えしたかったので、献血の呼びかけをお別れ会の最後の言葉で申しあげましたところ、このたび保護者会の方からその旨のお話がありました。涙のでるほど嬉しく有り難いことです。皆様の善意の一滴、心の一滴、血液の一滴が大きな流れとなって多くの人々を救うことを願ってやみません。虹のなたから彩もきっと微笑んでいることでしょう。

最後になりましたが、献血にご賛同いただきました皆様に深くお礼申し上げます。

長谷 純

## 保護者の皆様へ

車にて来校される場合、近隣の迷惑にならないようご配慮ください。

## MIMIコーナー

### 応援団

このインターカルチャが出る頃には、阪神タイガースのリーグ優勝も決まって「六甲おろし」が高らかに歌われていることでしょう。甲子園の応援もパワフルなのですが、SISには、もっと強力で心に響く応援団が沢山いてくださいます。

今年の学園祭でのこと。ニコニコしながら会場を廻っておられるK原先生とすれ違いました。卒業した上の子どもの話を聞いていただきました。「\*\*さんに、いつでも応援していますから、とお伝えくださいね。」夜、先生からのそんな言葉を本人に伝えました。しばらくその言葉を含むようにしていた彼女は、ゆっくりと言いました。「K原先生に応援してもらったら、本当に何でもできるような気がしてくるね。」...

我らが素敵な応援団長さま、これからもずっとお元気で皆の応援をよろしく願います。

(K原先生のファンより)

保護者会だより「MIMIコーナー」のご案内

保護者の投稿欄です。詩、エッセイ、イラスト、提言、苦言何でも結構です。学園への質問には担当者が誠意をもってお答えさせていただきます。

差し障りなければペンネームでなく、本名での掲載をお願いしたいと思います。誌上匿名希望でも、投稿の際は必ず記名して下さい。

<受付場所> インフォメーションセンター窓口前の赤ポスト

担当：保護者会広報委員会

## ネットワーク委員会から

春学期中に半数以上の地域で親睦会が開かれ、楽しく有意義な時間を持たれたようです。9月からは編入生の方々をお迎えし、9月中旬には新しい地区名簿をリーダーさんにお渡しする予定です。

また親睦会で皆様からいただいたご意見は、定例会にかけ何らかの形で答えしていこうと思っております。ご意見ご質問等ありましたら、どうぞお寄せください。

## 10～11月行事予定

月 日 曜

- 10 04 土 運動会  
 18 土 学校説明会  
 20～21 イヤーブック個人写真撮影日  
 22～26 APACテニス(大阪)バレー(北京)野球(上海)  
 11 04～07 玄関コンサート  
 12～16 APAC音楽祭合唱(神戸)オーケストラ(上海)  
 15 土 学校説明会  
 22 土 インターナショナルフェア

### 学校説明会のご案内

- 第4回 2003年10月18日(土) 10:00～12:00  
 オープンキャンパス形式  
 第5回 2003年11月15日(土) 10:00～12:00  
 選考方法、要項内容等の包括的説明  
 (希望者対象の個別相談有り)

場所：本校シアター  
 連絡先：入学センター(アドミッションズ 担当)  
 Tel 072-727-5070 Fax 072-727-5055

### 編集後記

夏休みが終わって、授業にクラブにそしてこのインターカルチャーの編集にと忙しくなった矢先、コンピューターの調子が悪くなって、仕事の後戻りを余儀なくされてしまいました。しかし、いつものことながら編集中は休日を返上して(…でも運動する時間は削らず！)、インターカルチャーを予定どおりに発行することができました。原稿を書いていただいた方々にあらためて感謝致します。今号も面白い記事が目白押し。40ページの大作です。隅々までごゆっくりお読みください。(馬場博史)

9月には多くの卒業生が顔を見せてくれました。大学生になって初めての夏休みでなつかしのSISに帰ってきた人たちの多くは『卒業してみたらあらためてSISの良さがわかった～。もどりたい～。』なんていいながら。そして2年目、3年目の人たちはすっかり新しい世界でがんばっている余裕と自信を見せてくれます。卒業生の皆さんにとってもこのインターカルチャーが懐かしく、励みになる存在であればよいなあと思っています。(井藤真由美)

インターカルチャーへの記事・ご感想等は、e-mailで [hbaba@senri.ed.jp](mailto:hbaba@senri.ed.jp) までお送り下さい。インターカルチャーはバックナンバーも含めて本学園ホームページ [www.senri.ed.jp/interculture](http://www.senri.ed.jp/interculture) でもご覧いただけます。また学園ホームページにつきましてはのご意見ご感想などは、[webmaster-j@senri.ed.jp](mailto:webmaster-j@senri.ed.jp) までお願いします。

編集：SIS広報センター 保護者会だより記事：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

Senri International School Foundation (SISF)

Senri International School (SIS)

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nishi, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055

学校法人千里国際学園(SISF)

千里国際学園中等部・高等部(SIS)

大阪インターナショナルスクール(OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話072-727-5050 FAX 072-727-5055

### 年間発行予定と主な内容 ( )は発行時期

- 春学期 5月号(上旬) 卒業式、入学式、大学等合格状況  
 6月号(中旬) 学園祭、教育実習  
 秋学期 10月号(上旬) 夏の宿泊行事、夏の諸活動報告  
 11月号(中旬) 運動会、玄関コンサート  
 冬学期 2月号(上旬) オールスクール・リタ・クショ、模擬国連  
 3月号(中旬) 入試結果、卒業生へ贈る言葉  
 他に留学報告、スポーツ結果、各種表彰、授業紹介、生徒会・クラブ活動等

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。

両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。